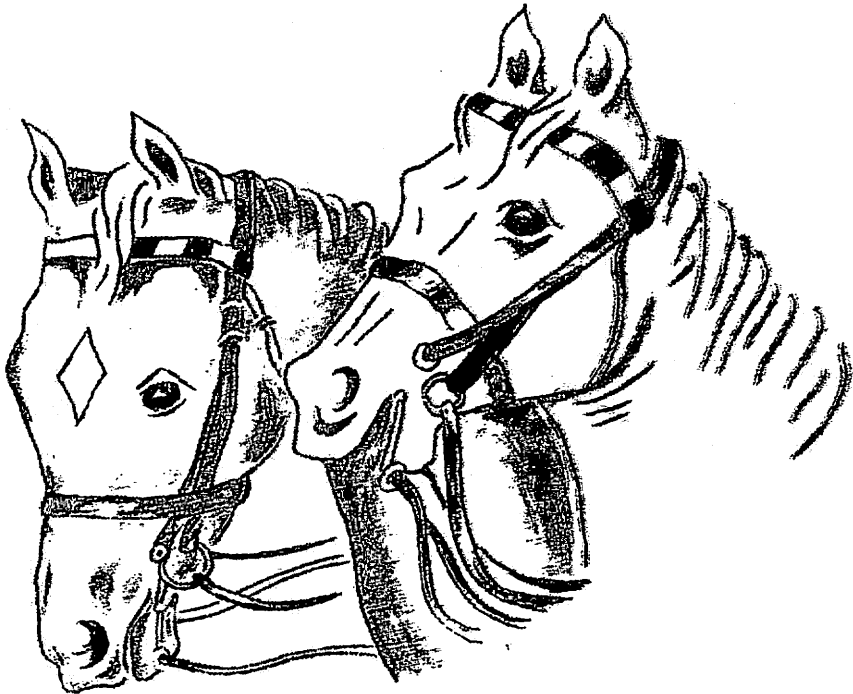


部 報

Ⅸ

昭和38年度



北海道大学馬術部

目次

		頁
1	年頭にあたって	主将 滝沢 南海男 (1)
2	過ぎ去りし部生活を思う	前主将 八木 正己 (4)
3	戦 績	吳 富士彦 (6)
4	会計報告	横田 肇・小糸 起彦 (16)
5	会計報告	守屋 正・片寄 謙 (20)
6	東京遠征記	小島 武 (23)
7	飼 育	菅野 弘 (26)
8	水産学部馬術部について	近藤 喜十郎 (28)
9	不帰の季節	三浦 清一郎 (30)
10	北翔号奮闘す	萩原 雅典 (33)
11	会計奮闘す	片寄 謙 (35)
12	新産ですよろしく	首藤 義明 (37)
13	住 所 録	(4)
14	編集後記	(52)

年頭にあたり

滝沢南海雄

年頭にあたり部の内状、これからの方針を諸兄と共に考えてみたい。

一、馬匹について

まず馬匹の事を考えるにあたり大事な事は、今や、貸与馬競技の時代は過ぎたと言う事である。もう少したつと玉次も姿を消すだろう。しんたつて今後の試合の成績は、良い旨馬を有する否かにかつて来る。

この観点からこの三、四年老令もしくは先の見込みの欠、ぬ馬を新馬と換えてきたのである。取手も北谷が去り北農が入つた。僕は昨年で馬の入れ替えは一応終つたと考える。現状では折馬回競古馬回競である。彼の構想では、試合用馬回競、練習用馬回競が理想的な形である。練習用馬と試合用馬とはつきり分ける事により、馬匹のくずれを防止し、後輩の練習も十分に行われるものと思う。さて今や試合用馬とする馬匹は、北朝、北翔、北豊、北涼、北農の五頭である。在せ五頭かと云うと北農が未だ調教の始つたばかりで

あるからである。しんたつて練習馬としては化驗、北揚、朝海の三頭がある。この三頭は今度の試合に於て良い成績は上げようべくもない。であるから今後の部の成績は市看五頭にかゝるわけである。

然しこの五頭中朝海のし上つた馬は未だいない。又北朝は同馬体の成績ならぬ今年こそは……と思われ、又他の馬匹は非常に不安定である。そこで調教者は一、二年後の試乗を目指して気長に調教していかざらぬ。そしてこれから五頭の足並みかそろつて来、北大馬部の名が天下にどろく事は間違いないのである。今こそ、そのための最も重要な時期である事を考えてもらいたい。又朝馬部も乗れすい下級生は、召遣の癖が古過ぎる故になるのだからと考えて大いに練習して下さい。

二、部の経済状態

部の経済状態は余り良く知られていない様である。そこで、この説明して経費を削減してほしい。

ポアラ並木の興に建設中の総合グラウンドの爲め、
競場が以前の如くに縮少した事は皆知つてゐる事と思
う。その爲めに今迄有つた、えん長・競争・稼わら等
の競場の援助が全くと云つて良い程無くなつた。それ
でこれから馬匹の飼料その也を全て所から買うとする
と、部の支出は最底、年毎百万円はある、と二万大郎
の収入は部費、アルバイト、OB会からの援助、寄付
等合せて四十万円程度である。

そこで、その差額の六〇万円と云ふこの欠かさな
る款である。この入り万可を学校から援助してもらお
うと、学生課へ交渉したが、学生課では、一つの部は
それだけの予算は出せないと云う理由で断つて来た。
然し、競場との話し合いの結果、競場の出来る限りの
額を援助するとの線が出たことは点すべき事である。
と云つても、その出来る限りの額とは、はつきり分つ
ていないのを十分に不安がある。今迄よりは部の財政
が吉しくなると考えられ方が良いだらう。そして又、も
し予算が足りなくなつたとすると、その代うめを何で
するのかわからなかつていない。

アルバイトを今迄以上するのは無理である、とすれ
ば我々にとって望ましい事は全国的な、日会、もし
くは後援会が組織される事である。への入人として再
力をとると云う言葉が耳の次馬匹を養うだけで年毎七

十万円もかかる特殊なサークルに於ては致し方が無い
事と思う、であるから我々は誠意を持って関係方面に
働きかけるべきである。
そして、それは今や急がねばならない所迄せまつて
いるのである。

三、練習方法

練習方法は今迄と余り変わつていない。又變つた事は
午前午即ち運動を行い、午後に新馬調教を行う事にな
つた事である。そして、この午後の調教時間には下級生
の個人指導と云ふものを含まれてゐる。個人指導は部
班運動の時より大きな成果を上げらる。それは騎手か
馬と一対一にならざるを得ないからである。

さて練習には障子の練習と馬場の練習の二つがある
が、代が部々於ては馬場の練習をこつと行つて
きである。はつきり云つて障子なら中央と地方も全く
差がないと云える。

此方だかどうして中や中央に於けるのは、馬場である
。これは、良い教師、良い練習馬が無い事と関係する
が、それよりも、北海道に於ては、馬場の競技が少い
事等から刺激が無く、皆の認識が足りない事の方が大
きい理由だらう。又漫せんと馬に乗つていたので、
うまくなる筈がない。一人一人考え、研鑽するから球

習しなけれはならぬのだ。

そこで、研究会を開き、判教を積み重ねるから練習した
いと考えている。これは本年から定期に行うつもり
である。然し定期なものだけに限らず、お互いにど
んくそう云う機会を作る意欲を持つてほしい。

四 部のあり方

最後に僕の「部のあり方」についての考えを述べて
批判をおおぎたい。

部に何を望んで入部したかは、個人によつて色々
あろう。然し部の果す役割りと云うものは一つである
と考える。それは、大衆という大きな団体の中で、馬
という一つの手段により、同じ好みを持つ者が集り、
一緒に生活し、一緒に考え、そこから人間の姿をのぞ
く得る事である。そのために部員の和が重要である。
又運動部であるから、技術を必ずついて良い成績を上げ
る事も大切な事である。然し、不幸にして、世手にな
れなかつた部員は一体何のために部に居るのか分らな
くなる。これでは全く本末顛倒である。悲しむべき事
に今迄の部がそう云う形に傾いて来つた事は確かであ
る。主持として深く反省し諸兄に再めて努力を乞ひ
ます。次の事を一緒に実行しよう。それが今迄以上に
馬術部を発展させる原動力になる事と信じます。

一、より良い人間のつなかりを！

より明るく楽しい部を！

一、よい目馬を！

試合に勝つと云う事は、あくまでも二次的なもので
ある筈だ。つまり、試合に出て勝つために部があるの
では無いのだ。ところが近年の様子から考え、試合に
勝つために部の生活が有ると思われるような状況にな
つて行くと云うのは僕だけの事だろうか？ ちろろん
勝つと云う事を目標にする事は判教となつて結構な事
だと思ふ。然しそれは、あくまでも沖一目棟となつて
はいけないのだ。部の沖一目棟となつてはいけないの
だ。部の沖一目棟は、部員全てが満足出来る、人間形
成の場となる事である。もしそれがなく、又優秀な選
手を輩出だけのために部があつたら……

五 終りに

部の事を色々書いて来ましたが、まことまりなく終
つた事をあおびします。

最後に、今年が旧年に居る良い年である事を祈り
つつ筆を置きます。

過ぎ去りし

部生活に想う

入木正己

一昨年九月に主席という小言引き受け役のかき止
事と引継いでより、漸く昨年の学生王冠を脱ぎ去る
に、その表面の責任、義務から逃れること出来ず一
息ついているところです。振り返つて見て、過去の
来事は、良いこと、悪いこと、皆なつかしく思ひ
出されますが、その中で最も印象に残っている事と、
最も残念な事を一つずつ申し上げましょう。

先づ最も印象に残っている事は、六月八日、
九日に行われた。東北、北海道学生馬術選手権大会
兼全日本学生馬術王冠授賞式。北日北地選手送で、これ
もかくにも代表権を勝ち獲れたということ。これ
だけだとさつぱり様子がわかりませんが、説明しま
しよう。我々はこの予選に臨んで、五月下旬より十数
名で合宿に入りました。それ以前の対外試合における
成績はシーズンインしてならなければ大差で優勝して
いましたので、皆意気揚々と合宿に参加してはいた
です。その時は、監督になられたのは、岡田先輩だ
と承知して、元氣な指導を受けて、越え越え選手を
育てて、

て、この調子では冒頭の有利もあつて優勝だといふ言
葉が聞かれました。合宿の途中で、初のダンスパーティが
あつたりして、合宿参加者も、時間制限を受けながら
も練習の疲れを癒し、そういうわけでは合宿も最後の
日、岡田監督の下に、高橋選手もミンクフレームで
馬場に下馬見え、和やかな最後のトレーニングで
いれたわけですが、私の騎乗していた新馬北極の調子
が良かったので、他の部員を連れて、経路をやらせ
るところ、高橋選手、中一〇〇軒他の平行オクサイ
を拒絶して極端に障害を嫌ひ出した。それで一寸も私
もあせつて、今考えるところやめておけば良かったので
かへ馬も不安なつておりましたので、その新馬に乗つ
かつて、その平行オクサイに向ける度につけて、必
三度目に無理やり飛ばし、さらにもう一度向けるとこ
ろ、もともと踏み切りは逆目の馬で、踏み込み
か進み上に前肢が死分上らず、バネをひたつたそのま
の姿勢で首から地面に突入してしまつた。一瞬ガーン
とショックを受け、走らなつたらしい。降りたのは
か走つて来て助け起して戻れた時は、気が付いては
か、顔と手をすりむいて、ひりひりし、ミソ落ちの
ころが苦しくて仕方なつた。部室で処置を手当てして
手は傷は一寸深かつたので、診察所を手当てしてもら
た。鏡で鏡を見ると、眉間から口の下にかけて、縫

塗つたのか赤チンで夏煮になつており、ていさいが鬼
くて外に出せざるを得なかつた。八月四日の
ことで試合迄治すの無理だつたからそのまゝ試合は出場
した。キヤアテンが二人は有様で思う様に動けないの
で、組の選手にも精神的に警告があつたらしく、何か
試合が始つても元気がなかつた。オー試合では私は相
手に喰われただ、皆静なるファイブを勝つてくれた。
ところが決勝リーグで、この。静かなる。が福いしく
双席番大に負けてしまひ、これで一寸カッパリしたか
、翌日は皆大いに入ん気して皆採詢承知の様に勝つこ
とが出来た。この時は全く各選手の功きははりつぱらつ
たと思う。試合後、名ある方々よりいろ／＼言葉を承
つたが、我々は決して漫心してはいなかつたし、必死
だつたと確言した。我々全では、いろ／＼ミスがあ
つて準備勝に終つたが、詳細は記録を見れば済ましよ
う。試合後色々批判は聞くと、負ける時は負けるべき
な道理があるのだし、勝つた時は、その負けるべき
な時としていたらどうか、あつてはいらすと考へる
のは愚の骨髄である。もちろん我々は必死をすべし、勝
つたが如何に難しいものか、実際必死に脱皮して居る
者でなければ、あつたらないことである。

次に最も残念なこと、それは新馬の育成がこの一年

間ではあまり成果が得られなかつたことだ。予定外
の試合があつたりして、新馬を使つたの色の一回で
しよう。団体参加はかろうじて北海第一頭のみとは全
く救しい、しかし、成績はあまり良くなかつたが、北
海、北翔は今年で明けると同年、北海は明けると二年目
。調教の成果は着しい。今後の叔い方々やオドと思う。
最も、極々、七万円の草競馬上りの馬場では大さな成
果を望むのは無理なのかも知れない。しかしある程度
までの成果は充分望めるはずだ。この。ある程度は
あえて云いたくないが。今年、今までは最高金額を生し
て買つた新馬はまだ明け五文という程さまで、大い
に期待をかけた良いだろう。とにかくこの新馬の育成
に關する問題は部のマネージャーメントの問題と成り、
是を引きそうだ。この匹で悪い切つた決断が必死の
ではなだらうか。例えは、二〇万円色の馬を揃える
とか、部員外の強心な調教者を現実に獲得するとか、
幸い今度のマネージャーはやり手だと聞いております
ので実現されたい。

また、先華滿兄にお頼いしたことは、我々現役の
汗して、若くは批判よりも先ず有益な御指導、御鞭撻
を乞ひ申し上げたい。もつとも我々も若輩の身で、生々
気な発言をすることもあります。そこはよろしく御
指導して戴きたいと思ひます。またそれをも増して、

現役は大いにハツスルしてとかく祝勝しながらの現況を
 吹き飛ばしてもらいたい。

最後に、吾と話しましんが、全日本学生馬術選手
 大会の報告を致しましょう。簡単に終らせませす。今年
 は昨年より更に二載して、試合形式次第り、オ一日目
 に馬場遊術(乙)で上池一六名を予選し、オ二日
 の一六名による各二頭乗りで障害飛越を行ひ、総合
 を出し、さらに上池四名によつて、各人四頭乗り
 かつて沢勝といつて入りになりましん。鬼田さんと私が
 先ずオ一日目馬場遊術に参加しんわけですが、鬼田さ
 んは、松尾二一ニ三三三、先呂一四〇〇〇、針三五三三
 三で一九位、私は、水島一五一〇〇、松尾は経路違反
 をして悪い出せなれといふ失態をして、一桁少く二八
 文七と最下位、全く比大馬術部を代表して恥を引いて
 しまつた様なもので申訳ない。もっとも凡那を引い
 て頭がボーツとしていたので、その実情次第量して賞
 さい。鬼田さんは馬運に恵まれなれさいもあつて全
 く感心でしん。来年の方はぜひ頑張つて下さい。

一九三四・一・四

一九六三年度

戦績

春季定期戦

五月三・四日

於北大馬場

対帝京大学

一、シニア戦

北大 185.25

帝大 184.00

出場選手

北大 田村、萩原、小島、八木、滝沢、三

浦

帝大 中原、児玉、湯澤、富山、川久保、

代岡

出場場

北製、北場、北檢、朝清、岸野

立山

二 シュニア戦

北大 180.00

帝大 177.00

出場選手

北大 大木、御坊田、水野、野田、萩原、

滝沢

畜大 湯橋、久保田、丸田、児玉、鍋谷、

代向

出場馬

北原号、北輪号、北巻号、北揚号、朝清号

之山号

三 オープン戦

北大B-1/23.5 ——— 畜大-1/22.00 ———

北大A-1/23.5

出場馬手

北大A 川栗、寺江、八木(秀)、滝沢(

建)

北大B 高野、近藤、加藤、高橋

畜大 森本、氏間、鍋谷、久保田

出場馬

北翠号、朝清号、洋孝号、キングフレーム

号

△対札幌鉄道管理局

北大-1/24.00 ——— 札幌-1/22.00

出場馬手

北大 松永、萩原、野田、滝沢、木野、菅野

札幌 布浦、竹崎、山本、澤崎、新矢、田中

出場馬

北翠号、北揚号、北輪号、朝清号、洋孝号、
之山号

△対北大東馬同好会

北大-1/23.5 ——— 同好会-1/23.5

出場馬手

源術郎 滝沢、小島、八木、田村、萩原、三

浦

同好会 佐合、田中、岡田、小山、森藤、正

嶋

出場馬

北原号、北輪号、北翠号、朝清号、幸進号、

キングフレーム号

○第一回北海道総合体育大会馬術大会

五月二十八日 於北大馬場

一 団体貸与馬中障壁飛越競技

出場馬手

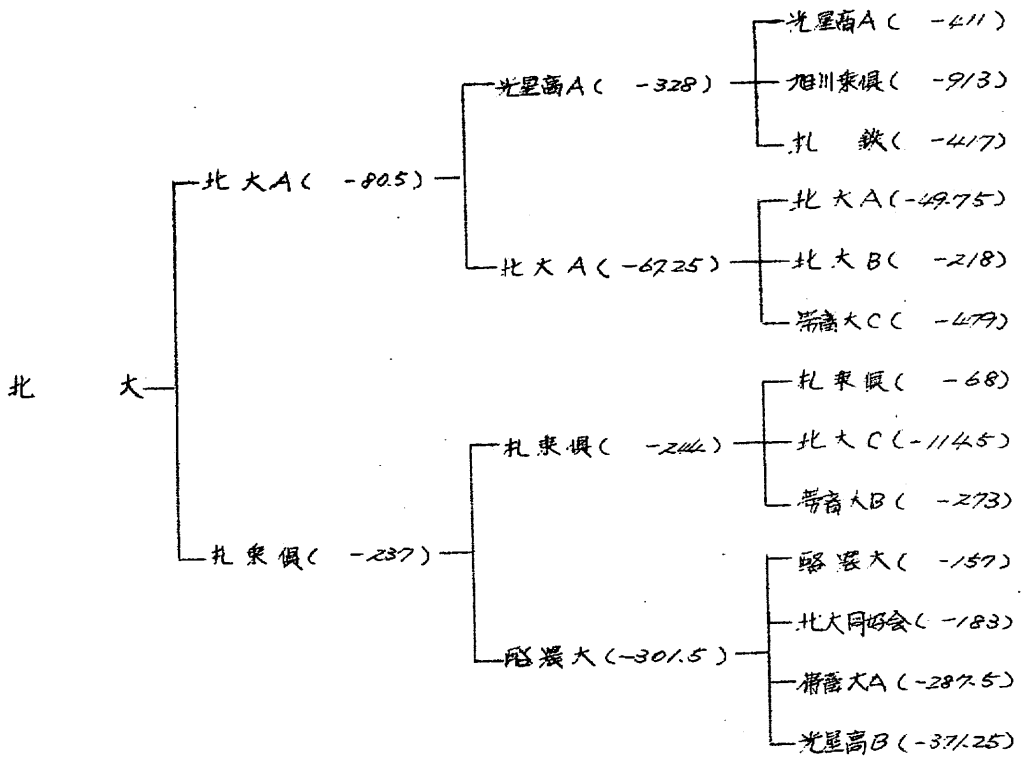
北大A 恩田正臣、八木正乙、小島 武

北大B 高木昭太、三浦清一郎、田村雅英

北大C 滝沢剛海雄、萩原雅英、野田行文

二 一般貸与馬中障壁飛越競技

一也 恩田正臣(北大)



。才十二回東北・北海道学生馬術選手権大会
兼全日本学生馬術王座決定戦北日本地区予選

大月八・九日 於北大馬場

一、予送トーナメント

北大 - 909.00 — 岩手医大 - 873.00
 新潟大 - 689.00 — 岩手大 - 908.50
 帯音大 - 738.75 — 昭濃大 - 869.00 —
 — 東北大 - 930.00

二、敗者復活戦

岩手大 - 658.25 — 昭濃大 - 707.25 —
 — 岩手医大 - 806.5 — 東北大 - 874.00

三、決勝リーグ

- 二位 松本昭四郎 (扎束俱)
 三位 赤藤善一 (北大同好会)
 三人、高牧賢与馬小障吾飛越競技
 一位 滝沢直子 (北大)
 二位 内山太郎 (光星高)
 三位 清水 力 (光星高)

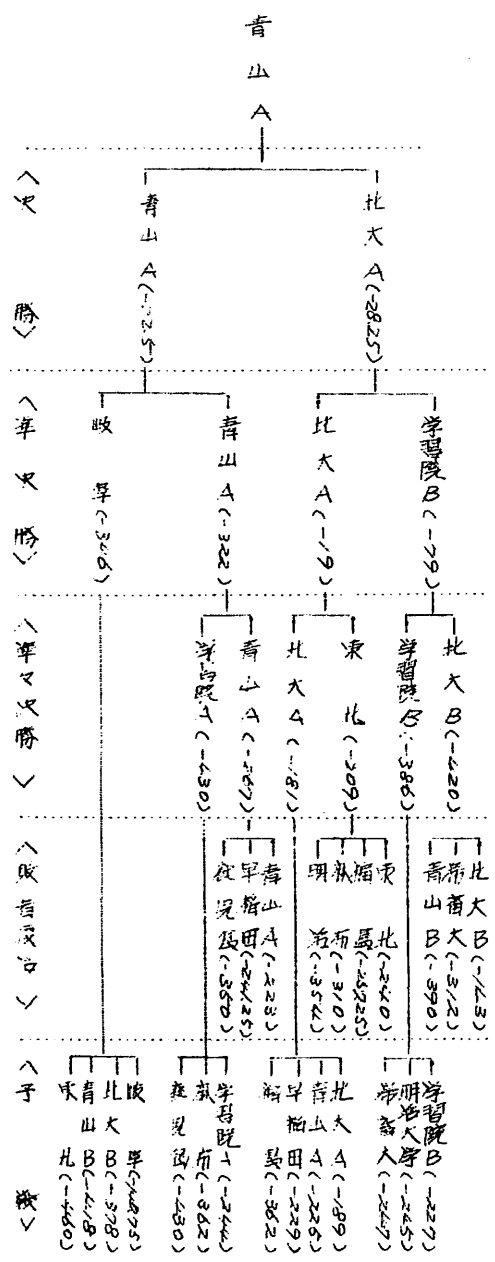
青 山 大	北 大	新 宿 大	出 場 選 手	青 北 色 箱 勝 敗 総 減 点 順位
X	O	X		
X	X			
X		O		
		O		
O	二 勝 一 敗	二 勝 一 敗		
O 勝 三 敗	二 勝 一 敗	二 勝 一 敗		
312525	295500	264025		
4	2	1		

出場選手
鬼田・八木・小長・高木・三浦・滝沢

○ 中央回招待日本女子学生馬術大会

七月二十三・二十四日 於北大馬場

一 團體戦



四 対東北大学長期戦

北大 645.00 — 東北大 7128.00
出場選手

北大 滝沢・野田・大木・木野・尾野・坂原・松本・榎坊田
東北大 山田・吉田・浅田・工藤・芳賀・甲田・吉田・榎並

参加選手

北大A 幸江・滝沢
北大B 牧・八木

二 初八戦

- 一位 滝沢道子(北大)
- 二位 岸(青山学院大)
- 三位 名黒(早稲田大)

才二回同立七大学総合体育大会馬術競技

七月二十八・二十九・三十日 於九大馬場

才二試合 北大 1-6 九 大 1-12 4
 才四試合 北大 1-4 名 大 1-12 4
 才八試合 北大 1-9 東北大 1-4
 北大 1-23

北大	東北大	名大	京大	九大	勝	敗	順位
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2
○	○	○	○	○	三勝一敗	二	2

出場選手

八木、小島、三浦、高木、野田、萩原

北海道馬術大会

九月七・八日 於円山坂下グラウンド(札幌)

一 個人競技

- 一位 鎌田(札幌大) セントベル号
- 二位 湯原(帯広大) 烏野号
- 三位 部狭() 竹吾号

出場選手(馬)

八木(北校号)、小島(北翔号)、野田(北校号)、萩原(朝清号)、滝沢(北校号)、野田(北校号)

二 大障得飛越競技

- 一位 佐々木(帯広大) 碧雲号
 - 二位 高橋(札幌大) キングフレイム号
 - 三位 苗山(帯広大) 雲霧号
- 出場選手(馬)
八木(北校号) 四位

三 大障得越越競技

- 一、六メートル 福山(帯齋大) 雲霧号 一位
- 児玉() 碧雲号 二位
- 一、五メートル 高木(北大) 北東号 三位
- 出場選手(馬)

重沢(北谷号) 一、三メートル

四 婦人貸与馬障罽飛越競技

- 一位 放 (北大)
- 二位 庄山(北大同好会)
- 三位 山吹(帯齋大)
- 出場選手
- 八木・寺江

五 甘馬中障罽飛越競技

- 一位 崎崎(北鏡馬) キングフレーム号
- 二位 岩坪(北東俱) 山彦号
- 三位 源田(北東俱) セントハル号
- 出場選手(馬)
- 恩田(北鏡号) 八木(北谷号) 小島(北)
- 翔号) 高木(北東号) 田村(朝清号)
- 新木(朝清号) 重沢(北翔号) 大木(北)
- 輪号) 水野(北場号) 菅野(北場号)
- 松木(北谷号) 河内可(北翠号) 渡賀(北)

- 北谷号) 横田(北場号) 加藤(北翠号)
- 小栗(北翠号)

六 一般貸与馬障罽飛越競技

- 一位 八木(北入)
- 二位 親家()
- 三位 西木()
- 出場選手

- 田村、河合、加藤、山村、首藤、増田、野田
- 富野、近藤、恩田、御坊田、松永、横田、八
- 木沢、小栗、水野、荒木、兵、菅野、嵯峨、
- 藤井、高橋

○ 才一回対鏡馬場自馬大会(障罽)

九月十日 於北大馬場

- 鏡馬場 1-N3 北大 1-125
- 高橋(キングフレーム号) 恩田(北鏡号)
 - 松本(洋号号) 高木(北東号)
 - 岩塚(山彦号) 八木(北谷号)

○ 対北大東馬同好会秋季定期戦

九月十日 於北大馬場

同好会 1-082 馬新邸 1-265-25

出場選手

馬術部 萩原、野田、水野、大木、滝沢
同好会 芥藤、岡田、正高、小野、半沢

北場号、朝清号、北楡号、半孝号、キングフレ
1人号

○岩手大学大学祭馬術競技

十一月十日 於岩大馬場

第一試合 北大-1238 岩大-521
第三試合 北大-5239 東北大-1224

北大			
岩大	X		
東北大	O	X	
			北大
			岩大
			東北大

一位 東北大
二位 北大
三位 岩手大

、出場選手

高橋、黒沢、広藤、松尾、山村、高野、吳

○第十九回南東北女子学生馬術大会

十一月十六、十七日 於 福島競馬場

一、団体戦(障害)
一位 二位 三位

参加チーム

北大A、B、早稻田、法政、慶大、福島大
北大戦手

Aチーム 寺江、政
Bチーム 八木、伊藤

二、個人戦(障害)

一位 波谷(青山) 二位 高橋(青山)

三位 小林(法政)
北大選手

寺江、政、八木、伊藤、横山、大塚

○対帝京畜産大学秋季定期戦

十一月二十三日 於 帝畜大馬場

一、シニア戦

帝畜大-1224 北大-120175

出場選手

北大 水野、松永、藤原、滝沢、野田、大木
畜大 坂玉、久保田、湯藤、都築、秋山、丸田

三、ジュニア戦

北海道馬術団本選手権

十一月二十四日 於 帯畜大馬場

帯畜大 1-3998 ——— 北大 1-5125

出場選手

北大 小栗、山村、高野、夏次、高橋、加藤
 畜大 久保田、田中、前田、萩原、飯島、鍋

谷

三 オイアン戦

北大 1-2225 ——— 帯畜大 1-965

出場選手

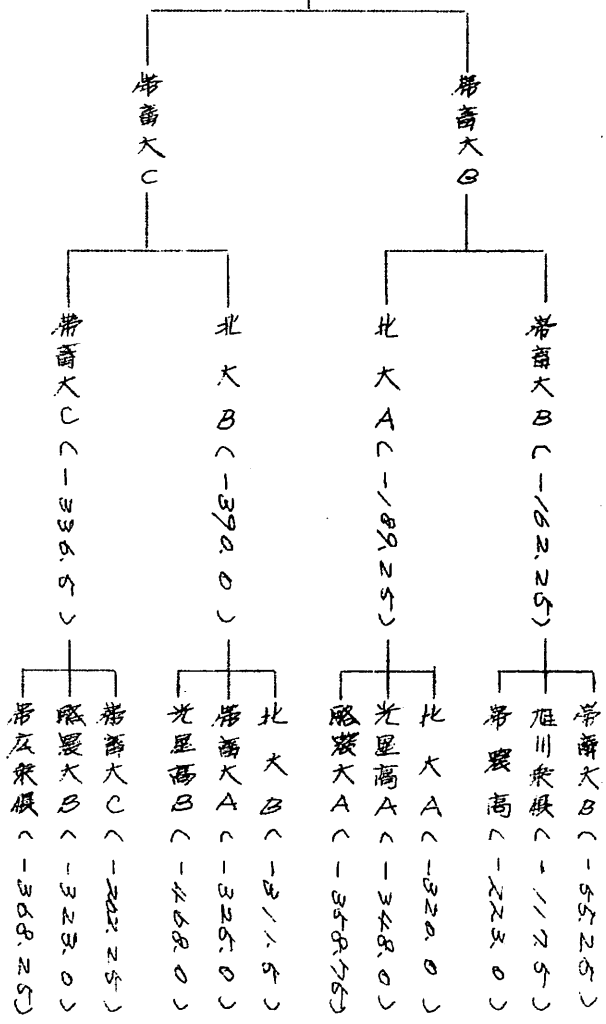
北大 八木、伊藤、辻藤
 畜大 山坂、山ノ、森本

(優 勝)
 帯畜大

出場選手

北大A 松永、大木、藤原、野田、滝沢、木野

北大B 高野、夏次、加藤、小栗、山村、高橋



。才十八回国民体育大会

十月二十八、三十一日 於山口

一 一般目馬複合競技

優勝 - 飛水(オースキット号)

二 一般目馬中障碍飛越競技

優勝 - 川口(オースキット号)

三 一般目馬大障碍飛越競技

優勝 - 保ヶ澤(バリィ十号)

四 一般目馬中障碍飛越競技

優勝 - 梅島チーム

出場選手(馬)

一、二、三 - 高木(北家号)

四 - 辰原(北大)・那須(奇大)・田中(北家)

。才十六回全日本馬術大会

十一月二、三日 於山口

一 中障碍(甲)飛越競技

優勝 - 鎌田(セントベル号)

二 大障飛越競技

優勝

出場選手(馬)

一、二 - 滝沢(北家号)

尚 カンジヨルジニ賞馬術競技は北大からの出場者は空かつた。

。才十四回全日本学生馬術対抗競技大会

十一月九、十日 於小倉

優勝 - 岡山大学

北大	馬場	今川	藤号
恩田(北家号)	○	○	○
辰原(北家号)	○	○	○
野田(北家号)	○	失収	失収
		失収	失収
			失収

。才三十五回全日本学生馬術選手権大会

十二月三十一、三十二日 於

恩田 松風 N.N.B.B 光臣 12000

計 35N.33 一九七

八木 水島 15X.00 松緑 2867

計 178.67 三十二七

予選區區者上位十名まで失収

。才十四回全日本学生馬術選手権大会

十二月十四、十五日 於東京馬術公苑

横田 肇
小栗 紀 彦

収支概要報告表

月	収 支	備 考	金 額	備 考
12月	収 入	先月よりくりこし	2,953	王次郎監修は、体育会、區馬 車、著立華及び東北、北海道各 大学の援助の合計金額である。
		部 費	6,500	
		北送号アルバイト	1,000	
		王次郎監修 雑 収 入	9,400 1,100	
	小 計		105,553	
12月	支 出	馬具用品	2,250	北送号購入については前年度の 部費で会計報告をし、北送 号のみの代金は11月それぞれ要 し、雑修費は12月であつたの で12月の支出分をこゝに記す
		北送号購入に關する諸修費	9,020	
		雑修費	2,737	
		王次郎監修各段 学歴進達費	72,140 15,000	
	小 計		101,147	
差 引		4,406		
1月	収 入	部 費	7,500	
		雑 収 入	200	
		先月よりくりこし	4,406	
	小 計		12,106	
	1月	支 出	馬具用品	820
北海道乗馬連盟費			3,000	
雑 修 費			5,040	
小 計		8,860		
差 引		3,246		
2月	収 入	部 費	7,650	映画の総収入は72,730円であ るが、2月に納入され、分 40,000円を2月の収入とし て記す。
		雑 収 入	3,517	
		映画収入(2月分)	40,000	
		部費に關する収入	5,200	
		先月よりくりこし	3,246	

月	収支	摘 要	金額	備 考
	小計		59613	
	支出	部費 稼わら 卒業式メダル 諸雑費 馬具備品	18400 8000 12000 7467 115	
	小計		45982	
	差引		13631	
3月	収入	部費 期直収入(3月分) 先月のくりこし	12950 32730 13631	
	小計		59311	
	支出	馬具備品 稼わら 追コン進出パーティ料等分 雑費 才一回主持巡遊費(東京へ)	5368 14400 4305 3930 4600	
	小計		32603	
	差引		26708	
4月	収入	部費 入部金 講習会 雑収入 先月からのくりこし	15500 10500 21500 1050 26708	
	小計		75258	
	支出	才二回主持巡遊費 馬具備品 講習会巡遊費 諸雑費	4600 15580 5000 6619	
	小計		31799	
	差引		43459	
5月	収入	部費 恒体育大会費補助金	9050 10000	

月	収入	簡 要	金 額	備 考
		先月くりこし 雑 収 入	43,457 280	
	小 計		62,789	
	支 出	学馬連連費 対面大談話至費 馬具備品 諸 雑 費	5,000 4,670 8,732 4,768	
	小 計		23,170	
	差 引		39,609	
6月	収 入	部 費 ダンスパーティー 先月からのくりこし	12,150 47,498 39,609	
	小 計		99,257	
	支 出	東北・北海道大会 慰 労 会 馬 具 備 品 諸 雑 費	32,460 9,500 3,092 6,055	
	小 計		51,107	
	差 引		48,150	
7月	収 入	部 費 七帯遠征補助(体育会) OB会費(札幌回来) 広 告 先月よりくりこし	16,000 20,000 29,000 26,500 48,150	広告は女子部のプログラムの広 告式である。
	小 計		139,650	
	支 出	七帯遠征費 女 子 競 馬 具 備 品 リヤカー 雑 費	75,105 28,022 10,400 5,000 8,858	
	小 計		127,385	
	差 引		12,265	

9月2日 恒例のアルバイト、大谷会館での映画会は「知りすぎている男」「セントルイスブルー」上映、部員各社の奮闘によりアック30円の利益を得ました。

これは一人30枚をノルマとしたため(四年目を除く)自己負担した人おぼつて少々厳しかったかもいれませんが。

会計の再三の請求にもかかわらず、1000枚近くの券が未回収となり、8000円近い税金として照徴に支払われざるを得なかったことは残念でした。

この収入は探偵、朝飯、卒業生のメダル等に使用されました。

5月23日中島スポーツセンターで、スラムクラブ会館でダンスパーティーを行いました。

総 益 47,498円

純益は5万を割ってしまったが、部員の未納金がある、5400円あり、計算上の利益は6万強になります。

今回は東京より八木沢君の友人の紹介するバンド「フリーメン」を招いて開きました。この数年来馬場部は映画専向であったので、パーティーは盛況に反しく、非常に苦勞しました。特に2年目諸君が札幌の各会社、商店に毎日売込みに出かけ、そのおかげで利益のあつたようなもので、管内ではあまり売れなかつたようです。2月の映画会より3ヶ月しかなく、又、商売がタキが専攻あつたためダンスパーティーが終わってから部員の休養甚しく、15400円未納のまま会計交代期となつてしまい、次の会計に申分けたい次第です。

利益は休止、北海道大会費、リヤカー、学馬連運賃等使用されました。

相変らず窮乏を続ける部財政打開の一環として、37年11月より部費3ヶ月滞りは課金率止という強硬手段によって部費滞り防止は着実に成果をあげております。

七希連延に75000円出ておりますが、我々会計が課金された金額をよく確かめお返ししたので、ちよつと滞り発生費となつております。もつとも九州からそれ相当かかるとは考慮しておりますが。

昨年度の部費で三浦さんの会計報告の中「来年度は農場と馬場部という状況の中での困難な状況の向題はその極大にするさめろう」という一文がありました。我々この1年間、我々の一帯アック河源はこの向題でした。37年まで照徴の餌は農場より現物を給與しておりました。農場の一部が

ラントに合ったため、現物支給となり、一方、学校は今まで予算を出していないのを理由になかなか認めてくれず、それに農場の事務も、学生課から入る。半次先生及び我々の再三、再四の交渉にもかかわらず、未だ明確なる解決に致っておりません。反まつに皆全致し、藪藪屋から今朝下宿へ遷移がなつてきたり、学校の実験室へのりこまれたりで「しばらく、しばらく」と逃げの一手。最近ようやく予算があり、小乗を探っております。我々の会計現状が本人と解決しようという手をつくしました。ついで式し料が、中途でこの会計、母屋・生寄両君を境わすことになってしまい残念に思います。

以上、会計報告のとりとめのみを簡潔に致しまして、部長半次先生の考大なる御尽力に感謝し、次の会計、母屋・生寄両君に継ぎたいと思ひます。

次に8月から11月までの会計報告を致します。

月	収支	内 容	金 額	備 考
8月	収入	7月繰越金	12980	
		ホニ次合指入金	1520	
		借馬料(競馬場より)	3000	
	小計	17500		
	支出	備品・雑費	備品代	
乗馬家会費			2930	
馬場馬具販売			1800	
通信費			200	
通信費			215	
小計	8665			
差引		8835		
9月	収入	8月繰越金	8835	その内は未納金が含まれてお ります。
		部費その他	26050	
		借 附	6000	
		競馬場アルバイト	12100	
		直大会休業費	24000	
小計	76985			
支出	備品・雑費	5430		

月	収支	内 容	金 額	備 考
		栗 岳 代 国大会負担金 道大会諸雑費 全日本出場費 通 信 費	1,670 12,400 3,480 600 200	
	小 計		23,780	
	差 引		53,205	
10月	収 入	9月繰越金 部費その他 身附(国体) 競馬場アルバイト 競場アルバイト 札鉄より	53,205 8,950 26,000 78,850 13,000 500	
	小 計		180,505	
	支 出	北農号(ミストヨサカエ) 用品・雑費(含菜岳) 国体、全日本学生馬水運費 両区登録費 有藤先生区別会赤字 通 信 費	110,000 16,762 33,500 1,100 4,580 1,488	国体備置が含まれては +3,000-
	小 計		170,430	
	差 引		10,075	
11月	収 入	10月繰越金 部 費 競場アルバイト	10,075 1,250 31,000	部費総金が追加札が、部費が入 金していません。
	小 計		42,325	
	支 出	用品・雑費 若手登録費 関東北女子登録費 村新橋秋季定期費	2,468 5,000 8,000 14,000	
	小 計		29,468	
	差 引		12,857	

(注) 新馬購入の身附が約1万円程さしておりますが、台新額がまだ明確になっておりませんので除外しました。

取年度よりの部の財政状態は持ち火の車、そのへん部部の新設が現場の学生課までやや混乱状態を
つうけ、その間、渡辺、新設への借金が合計40万程、今日及の合計は借金をなるとかして返済し
ようと出発しました。9月から3ヶ月間、現場、学生課、そして半次先生のもとを歩き廻った結果、
ようやく返済の見込みがつき、やれやれといった気持ちで新年を迎える事が出来ます。とりわけ部長、
半次先生には御迷惑をおかけし有難く思っております。

まづ支出面より

本年度は水になってからの遠征回数も多く遠征費もかさんでいます。専休、学生員馬場東北女
手続、岩手遠征費、それにノス月になれば全日本学生王座決定戦、学生選手権とあるは、ある日の状
態、これらの総額はざっと10万、これに新馬場北長号、(ミストヨサカエ)購入費11万、このよ
うに8月以後は主なものだけで20万近く費用がかかっています。

次に収入面について

支出面で見ましたら8月9月から11月まで4ヶ月の間は約20万(主なものだけで)月5万の
費用がかかっている事になります。

現在部員数約60名、部費1ヶ月250円、1ヶ月の入金は1万54円、これでは月5万の支出は
どうして出せず、どうしても諸先輩の御附、部費のアルバイトに頼らざるを得ない現状です。

その為かもしれませんが取年度の会計の休った悪化：部費3ヶ月滞納者は断絶停止、をそのまま変
け進んでいます。その3の状況はこの悪化にのみか一月間断絶停止を申請されています。

幸い専休代、遠征代等は現場、同好会より負担してもらっていますので、部では遠征費、前年、年
の費用の及ぶ人とみれば切り切つてはいけませんが、前述のように専休、アルバイトに頼っている部の財
政状態は部員一人一人の苦勞を考へて一体何の為に馬場部へ入部したのかという事にやはりおぼしい
現状です。この現状打開の為には①各選手はアルバイトをさぐす事 ②専休制
からの援助をもう少し増やしてもらう事等を考えています。すぐ出来るという事はなく目下思案
投げ首とつたところでは。

以上の会計報告を終らせていただきます。では諸先輩及び部長御清見、よき新年を。

(黄 光 等)

「第六回全日本学生馬術 王座決定戦に参加して」

前副将 小島 武

札幌濠学校はエゾケ島

集がすむ

札幌に建てたる大救命

コカ 敗軍か戻しき

異理とく、コカエ コカエ

一九三三年十二月八日札幌駅前のプラットホームに
大ストームがくりひろげられた。

半沢直都部長を先頭に同好会、札幌、部員、志願
の盛大な見送りさうけ送手八名は必勝の意気をもって
雪の降りしきる札幌駅頭を出発した。前年優勝して
いる我々は往ける立場ですのより一層の練習、競
練をしてみごと王座を守りぬこう、これが我々の相言
業と在り本年度の大きな目標でした。

四月より半沢新部長のもと、新に先輩の岡田氏へ
札幌市役所を監督に迎え前年度に習して競化練習、
合宿をくり返し王座を再更克取るべく努力を重ねた。

序番戦の春の各種の発射戦、即ち対馬及常陸入、対北
大同好会、対札幌馬術部、対東北大学定期戦に全勝し
、さい先の良いスタートを切った。これに意を固くし
て才一回北海道体育大会馬術競技大会に冠甲、八木、
小島と組んで圧勝した。この時の部全体の盛上がりは
、小生、部生若を通じて競馬のちのちはさあつたかと
思われる。そして王座決定戦の予選即ち東北、北海道
学生馬術選手大会に優勝し知事杯を掴み取りたいと
き、皆からの苦しい練習もその感懐に絶て昇華され
、ここに再度王座決定戦の出場権を得たのである。それ
て夏、秋とすぎ、十二月に入り、もう雪で埋まってい
まつた馬場下は、凡の中最後の仕上げの合宿を行つた。

「王座での優勝」という大きな目標を持つて九名の
侍が札幌庫に立てこもつた。合宿最中、最大の強敵に
対すると思われる学習院大学が関東一部トーナメント戦
の結果出場権を得た。これで、現に出場権を得ておる
西日本地区代表鹿野島大学、府内地区代表大阪府立大
学、中部地区代表名古屋大学。それ北日本地区代表
北海道大学と五人学がそろつたわけである。二の中
二年連続出場は北大のみであることから、いかに強魁
に予選が戦烈であつたかがうかがえる。本大会に我々
の強かなメンバーの一人である所川兄が出場出来なく
なつたことは実に残念であるが、現在勉めるベストメ

ンバーを臨み得。しかも充分な練習を積んで来たのだから、あとは本番で全力を尽して戦うのみである。

翌九月東京に着いた我々は一高同窓会敵に志木、大場両氏のお管振りでお預りすることになった。十月十一日パレスに行き印南氏の御指導のもと練習させていた。大里、乗馬七頭柳ら松尾（八木）、三光（恩田）、錦松（高木）、三里（三浦）、松原（英策）、和光（野田）、ゴドルフィン（八島）をパレス乗馬クラブの御好意によりお借り出来た。

十三日東京の、B会が我々の敵団を新宿の「錦菜」雇して雇いて下さった。同日キヤア全試お行われ、十四日はまず沖一試会を鹿児島大と、沖四試会に各八人がつかることに決った。連盟で北大と学習院大戦が優勝決定戦になることをみこんで、既に組合わせは決められておった。十三日の晩、策談会談を解散で行い明日からの戦いに志を立てて早目に床に就いた。戦を前にして学習院細田、東園両君の御好意により関東一部二部トーナメント戦の記録表をお借りし馬のクセ、現在の調子を調べてあるので目途はあるが、さすがに興奮しているのか、ねつたれが寝返りを打つ意欲あつた。いよいよ十四日晴れの大会は馬術公苑に前座とれた。快晴の短な日まるで蒼先を思わせる気候でコンディションは上々である。「初日の相手からみて今日はま

才取り二ばすようなことはあるまい。しかし猶前入敵というから気分をひきしめていこうせし。開始前我々の気持はこの様なるのであつた。いよいよ沖一戦鹿見

島大戦、最前段の八木が船試に騎上し落着いた飛越で才十障善まで順調にいったが、右一つ押し次はらず十一番最終障善を飛越しえず、其處必を喫した。ついで滝次が飛馬に騎乗し沖四障善やが飛びる阻止を急ぐ。其處必を喫した。この馬はその右二試会出た来たが、計八人乗つた中でこの阻止が唯一であつたことから考

え附せても大きな出来事であつたといわなければならぬ。ついで小島（兼壽）、三浦（聖隆）とも一落下三失で廻り、ついでこれも衝次馬場月号に高木が騎乗し出場した。悪くても一落下で回つてくるものと期待したのだ。どう思ひ違えんが沖九障善を抜かして才十障善を飛越してしまつた。身念なる玉置達及である。これ98失という決定的な試会を喰ひた。最後に志田が飛馬に騎乗した。この馬は前段が88失しているのでもまだ失失回復の望みはあつたが、またも才四障善で玉置達及で失失してしまつた。結局玉置達で強れたのであるが高木が順調に飛んでくれているから完全に逆転していれば十分に其處必を喫であつた。

沖一試につまうきはしはたそれから鏡をとり直し午後の名大戦は滝次、高木が一失うつくわれはした。

277
1 505で圧勝した。ついで翌十五日大阪府大戦も八木が聖王をうまく乗つて掛かる美差であつたが平勝し、二勝一敗のいよいよ最終試合等習院大戦に優勝が水けられた。二川まで等習院は鹿児島大、名大、府大と連続し三勝を記録している。

四年間の最後の試合がまことに初められようとしてゐる。馬群が決定された。日笠、栄尊、稲和、飛馬、東精、桜冠、いづれも文句のない万乗馬である。しりてあげれば栄尊、稲和、桜冠をマリーフするぐらいである。しりて唯一人の失失が決定明失失になることは明々白々である。一人一人が万乗でこなすにはならぬ。前右殿が次まつた。幸い希望通り桜冠の右殿がこれだ。馬群は日笠、竜次、栄尊、小島、稲和、高木、飛馬、三浦、東前、八木、桜冠、恩田である。テレビカメラが公苑の建物の屋上に見える。この電波を通じて遠く札幌で馬場のにおいのしみこんだ東米衣に身をくする人びとが我々の活躍を期待してみているに違いない。それに会場に集られてゐる諸先輩もじつと凝視しておられる。この試合が終れば我々もはや学生時代の馬術も終るのである。さあ最後の戦いだ。四年間目指した優勝もあと一歩なのだ。

いよいよ試合開始である。一番竜次(日笠)は申向なく減失のる母スタートを叩いた。だが等習院も國部

が飛馬号にうまく乗りこれに美差ます互に減失を失してスタートした。

つづいて私が栄尊号に騎乗した。この馬は右が堅く大ロウハミをつけてゐる。いまままで三試合で一番長いのが鹿児島大戦での私の一落三失で万乗はいままでけいがない。龍大の副将が右ハミにたつて交抗され、また右大、龍大戦では三失を拒止してゐるので油断は出来ない。スタートしや一階警単一を通過し直線でも二階警単行横木に向かつた。これを逐下し、おと右直線を注視しや九階警まで飛馬通過した。さあ最後の直線だ、馬はぐんぐん階警に向う。またおなり階警直距離がある。こゝで伸ばしたから落下するがそれなりと考え一瞬手綱をしばつた。そしてオナドラム横木が十一三級横木を避避失で飛ゴールラインに飛び込んだ。減失3である。馬を愛撫しながら自分ではいよいよやつたのだと感じた。馬を降りてタバコをくわえん時、責任を果せたいこととこつと在こびを憶えた。

その右試合は銃多(東前)の、西木(稲和)の、東田(桜冠)のと全くゆずれず前段三八つ終つて減失3ですばらしいスタートで、あつがり四つに組みのいよいよ勝敗は後半3人にかかつた。

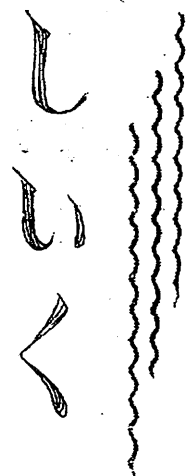
七番三浦がその先頭としてスタートした。しかしスタートして揮舞そのおとくとはしてしまひ決定的にな

奥々地に奥をくつてしまつた。そのあとで早稲院大は私が来たつた米津で勝田が三奥減失したのみで細田（日野）、中根（福和）と菊英、一芳が落ちた北大は八木（東朝）も、鬼田（從冠）もと減失を重ね結局6-14で差で遂に二連勝の夢はくすぶつた。西枝互に使關を反、えあつたが、あと一步で二連勝という大變を逃がした。我々はその残念さを聊か一人一人かみしめ反にちがいない。もはやこの試合を最後として与る私達はこの勝負をする機会は今久にないのだ。そう思うとなお更残念であつた。しかし代々は最善を尽したのだ。それでやがれたのだ。早稲院大等という気心の知れた互に好意を持ってゐる部同窓で我々の最後の試合、（いや私の最後の試合といつた方が正しいのを知れなにか）を斗い得た、しかも王様の優勝戦という大きな舞台での斗いということを考えるとなは満足すべきなのかも知れない。

もはや大会を終わつて二週も過ぎた。私の部生皆も、もうすぐ終りなのだ。そう考えたら、未だいなむ部の将来を老練心ながら心配しざるを得ない。くどくはいうまい、ただ一言「練習頑張るよ、吾れは練習をせよ、そして検舞色に出で感激の涙をながせしと。」

最後に今度の大会ばかりでなく日ごろから色々お世話して下さつた先輩各位、馬術関係者各位に厚くお礼

申し上げ筆を置かせていただきます。
（追） この一年間のこまかい記録は記録の部を御参照下さい。また、私と同じ内容の文章が他にも重演しているかも知れませんが、その更おしなす。



菅野 弘

「概七分に乗り三分」とはよく云われることで、これは大曲の剣先管理が大切であるということ。我々学生が馬を訓練するということはそれだけで大変なことであり、ともするとその管理が情性に流れたらかなり易いものですが、馬にとつてこれ程の苦痛はないだろうと思ひます。大事なことは最善の飼養法を講究し、各馬の個性をできるだけ生かすことです。部員諸君はあがりさつたことでしようが、ここで具体的な注意事項についてのべてみましょう。

まず手入れですが、ブラシだけは十分に行う必要はあります。ここに夏場や汗をかいたような時は、それによって新陳代謝も活発になり、フケやよこれが注

じやすいので、体の弱々まで根づラン、老づランで十分に手入れしてやらねばなりません。夏であれば水で体を洗ってやることもよい事です。背を反らして埃が落ち昇り、フケが舞うようなことでは馬乗りの資格はありません。いつも老涙が有り、鏡が曇るような状態にしてやり反らぬのです。又蹄の手入れは片つしておろそかにしてはならないことです。文字通り蹄は馬の生命で、跛蹄、割蹄はさておくとも、練習前後の手入れ、蹄油等は蹄擦、蹄刃の部分に十分注意してやって下さい。毎年装蹄師の検査に馬を貸して頂きますが、これは是非とも中止してもらい反らぬのです。敗年は、鞭傷、傷筋、腰痛、夜驚病その他種々な故障が考へつ反と思ひます。年内の治療は獣医にまかせるとしても、その予防や簡便な治療は、全馬が心掛ければなんでもないことですし、鞍傷をおこさせるのは全く沙汰の限りで、馬乗りの恥と心得て下さい。

次に飼料についてですが、悪食は単味でもバランスのとれ反差分をもつてゐるので、穀、糠(脱脂)等を適量に混ぜて与える方がお互に不足する養分を補い合うので、望ましいことは勿論です。現在の飼養法の尚題は、飼料を通じての粗飼料の不足ということ、それをカバーする反めに濃縮飼料をやり過ぎること、ということ、また飼料の中に糞や粗糞を混入しやりさ

すればよいという考えがあることです。濃縮飼料の糞、糠、穀等はどの馬でも一日に十五斤を越えることは消化の面からさけたいことです。各馬の体價、年令、運動量等によつて加減しなければならぬことです。又、反り量、反り角、反り幅はよいと思ふのは誤りです。粗飼料の青草については、北大嶽内の芝生をうまく利用すること、この芝生はケンタッキーブルーグラスといひ、牧草の中でもすぐれたものなので、芝生を刈つていたら必ずそれをリマカーで運んで与えるようにすべきです。また穀場との交渉は反りによつては牧草の量をとらえるようにもできるでしょうし、デントコーンの利用時期も討取りに行えば馬に下痢をおこさせずに十分利用できそうです。乾草の自家調製の量もあり、これは量換手数のことを考へるとおまじり初果物とは思へませんが、都に各都府員諸兄が所をいとおぼせとせと青草刈をやって食わせてやって下さい。

次に馬のことですが、馬を皆同一視することは妥当でないことは、いうまでもありません。サラブレッドあり、アラブあり、中半血ありで、それに依つて特徴、性質も異なるので、管理責任者はいつもその馬の体の調子がわかつてゐるようであつてほしいと思ひます。

敗年は比率と北巻及びに継続してしまひました反り、止むを得ないことには、いよいよ解えられぬこと

でし。これからは何年か毎にあることとしようが、
いつもあの馬は十分なことをしてやればというわけ
かな満足感ももちろぬことだと思ひました。

今年も馬を大切にしようと厚分が深澤さんによるような
飼養管理を愛情をこめてやろうではありませぬ。

一九三四、一、一

水産学部馬術部について

北水馬術部

北大の中で水産学部のみか函館にありませぬ。運動
クラブもこちらで改めて設立して彼らおはせませぬ
。馬術部もその類に属せず、又馬術という運動の特殊
性から簡単に出来ませぬ。その為先輩諸氏、いろいろ
努力がなされんが、やつと三年前より函館競馬
場で四人組に集れる様になりました。そのためこちら
でも学部内で新しく馬を好む人が集まり、今春四月、
札幌よりの馬術部員を中心にして北大水産学部馬術
部として発足しました。満足しなと云つてもなけれど
八人教でしたので合同練習や試合参加などはむろん不
可能で、何ら等内あるいは等外で活動することは出来

ませぬでし。十一月になり恒例の学技会もあられる
ことになりました。それに馬術部もこのさい何らかの
形で参加してはどうかという部員の中からは上
がり、幸い部員数も札幌から来て集まりましたので、い
ろいろ討議を重ねた結果、講習会をやることになりました。
し。なほせ活動するのは始めてでし、はたして人
が集まるかどうか心配でし。考分お盆をこつたら来
るけれどろろし、アマチュア規定にひかかるとはな
いかという意見が出て、このさい思ひ切つて予算をや
ることになりました。

馬が何種でし。半は競馬場の方々の御好意によ
り之頒發していただけることになりました。当日の競
馬パンフレットを依り教習や各講堂などに配りました。
。ポスターも等内の目につくところ教習所にはり、前
輩教をおおりました。

当日は秋晴れで函館にはめずらしく凡もよく、競馬
の盛況がよりでし。競馬場は学技より約10kmの所に
あり、馬が途中で走り出すなど、連れてくるのに大変
でし。が、市民は始めて競馬姿をみるためだとして
注目のでし。午前十時より荒木主持のあいさつに
より講習会を始めました。そのころはもう三〇人位
の人が馬場をとりなこんでいたでし。馬場とい
つても学部のグラウンドに繩を張りめぐらして使つたも

ので、地面が悪く、下がすべるので部班運動を行うのに大変でした。最初に講習生、鬼物の入連に馬とはどういうものであるかとそれから馬術の護技、乗り方、などを話し、それから一人一人にたすなの持ち方、姿勢など教えてゆきました。すべての人が始めて乗るので、教声や奇声があがり、遂ちそうになつたり、驚かしがみついて離さなかつたりで、それか十分ぐらいして、と雖でも大分慣れてくるせいも安定してくるようです。午後五時人ほどの申し込みと50人近くの見物人がありました。途中に新聞社がかけつけ、写真をとるなど、又いろいろ砲臺に部について聞くなどしてゆきました。砲臺は二九ほど反響を呼ぶとは思わなかつたのでびっくりしたりはんでりした次です。札幌では講習会などまるめずらくさぬので、世方部市のせいもあり、目新しいのが多いのでやはりこのような変わったものは早く付いたのでしよう。

講習会のプログラムの最後に尻籠りと秋して部員による障害飛越などやってみました。障害といつても七〇センチ程度のものです。馬は未だ生まれて障害など飛んたこともないのばかりでしたので飛ばせるのに大変でした。ある部員は「どうだ、彼は飛ばない馬でも飛ばせたいんだぞ」とふんぞりかえつていました。飛越後、野庭を巡して暮らそうになるなど冷や汗もの

でした。

講習会も無事終えて、その夜、皆をいろいろ反省やこれからの計画などを話し合いました。講習会はまあありいろいろ大変やいたらぬ所もありました。初めてにしては大成功だったとの皆の感想です。これからはいよいよ冬になり乗馬上馬をやるのにも困難になりますので、乗馬を目標にいろいろ計画を立ててみました。また春早々競馬場の入連とトラピスト修道院まで街乗するつもりです。暖かくなつて五月頃、去来からは新聞社、競馬場とタイアップして社会人対象の講習会を行ひ、それを基礎として乗馬クラブを築こうと思つています。

現在は競馬場の馬をお借りして乗っているのですが、やはりクラブをやるならば乗馬クラブ自身の馬を伴つことが必要です。その為の資金が問題ですが、まず同好の志士たちを集める為講習会を開き、その入連を中心にして資金面を解してゆこうと思つています。又馬を買つても馬の世話、馬具など、とにかくいろいろな問題を山積して、前途誠に多難ですが、ひとつひとつ着実に問題を片付けてゆき、将来は乗馬連盟に加入して、北海道の馬術向上にはやみくもに思ひます。幸い学校には馬術部というものがあつたとめられ、少しではありますが予算などが出るようになってきました。現

在、函館市と水産市場をつつんでゐる光澤ムードをせ
ひ馬術によつて少しでも打ら破りたいと部員全員思つ
ております。
(文責、近藤)

不帰の季節

三浦 清一郎

終る。そうだ、幼かつた一つの季節が終焉し、厳格
な春を迎へねばならぬ。

この鬼いを切なく抱きしめつつ、ぼくは再び新天
空に成長しなければならぬ。退却を許されぬ野原の空
野に、今はしばしば立ち立し、その流れに身を舞ひ交る
のだ。

ぼくら四年生は、自己を磨き、記憶の中へ帰って
行き、何故にこうして傷つき、傷つけ合ひたか。愛の
欠落した世界に歩みを置けばならぬかを、じつと甲
虫のように年棒をく凝視しなければならぬ。そして
今、死に果てた秋夜や、沈黙した夢を解いて記憶の糸に
たぐつて「別離」の意味を知ろうとするのだ。不帰
の季節。は今そのサエールを下して来る。明日には談
別を告ぐべき世界ではない。しかし、ともあれ、四

年の才月は小さな宴ではあつた。

二年前の春は三十年史に響き續つたことがある。
即りない季節の交感——。

春は花々と光の中、隠れや、頼いやを秘めて若まし
い息吹に盛れて帰つてくる。

秋は舞い散る銀や、スピード型のポアラの葉蔭やに
馬達は遙かなる旅人の思を知る。

静かな春に冬がくる
やすらびと懐しさとが啼つてくる。

こうして季節が叫びに迷つた。白い手袋を脱ぎし
とき、五月のさんくたる陽光の中に銀色に蒼つた手
指の連山があった。春の野原を埋めつくしたたれ雨
の髪はなや、初夏に輪の糸を飾つたつまじい野原の
白い花々に僕らは全く誇り高き詩人であつたではない
な。

夏の夕陽、薄暗い溪谷にムシロを下げて、何て僕
らは幸せな同僚同類の生活を送つたことだろう。怒鳴
られどうし、使われどうし、一日が終ると埃と疲労感
で身体中から土の香かするのだつた。そして僕らはあ
れ以来北国の暮に慣れ、自然のリズムをきかなくな
つていく。

ゆらり、ゆらり、ゆらり、ゆらり、乾し草の馬車は
行く。天然の置鏡な緑床をばくは往く月、秋の使りを

受け取ったものであつた。ポアラが忍きるとアカシヤの並木道、そして更け細い道が忍きると玄い牧草畑になる。秋も深まる頃、峰々だけが白い夜をまとう。ぼくらはよく乾し草の山を歩き在する草葉を思い思いに馬を蹴つた。

しかし、今はもうみんな、季節と共に失ひ忍し灰瓦景と合つてしまつた。

二年目になつてぼくは怪物となつた。三年になつて更けその度か深まつた。二の向、ぼくが生き死にの荒れにキラ／＼光つてゐるものは何だろう。三十年先の死と「北斗」の思ひをたそれだろうか。

「北斗」、そうだ、織し名がぼくの心のひだの奥まで郷愁の鐘を突き鳴らす。ぼくはずつと首、おまえの氏めに歌つたのだ。

北斗、野けろ

秋を、この黄色い傘の葉の秋を、

青い／＼大空の果てに、夜明けの時に

おまえが逝つた時はくは泣いた。それより久しく笑を忘れたしまつた。

こうして四年になつた。吐し日や次続いた。青春の一日性を思ふ廻りの中をぼくは夢世のニヒリズムの餌食と合つた。五月の試合、六月の合宿、そして辛うじての勝利、七月の合宿、九州遠征、不覚の遠征、十二月の合宿そして東京遠征、倦怠の敗退、これらは新しい記憶の堆積である。

こうして採々な記憶を執拗と溜息し続け、ぼくは別荘の趣味を何おうとする。馬術部に入れたぼくの肯者は一体どうだつたのか。しかし記憶の波は古傷の痕をぬぐい去り、痛みの悲哀をその沖合遙かに運び去つてしまつてゐる。数々の事ともか美し忘却の世界によみかえつて「美」と化してしまつてゐる。ぼくは大衆の青春を讚美する、新たな生活を食欲に希求して厭々な試みに悔はない。その中でも即生活は生活の四分の一を消費して、今ここに最後のペン取る。

愚小屋、その中でぼくは更け葉々々を羊人た。即生活をおいては求め得なかつたもの、その上石石のような輝く、眩きもの、かたき身にも十指に余る。煮る日々を静かに、これまでの多くの先人達かえうしたように、即生活や既を巡つて、残しい足跡を絶ちかしてみるのだ。

ぼくが慕つた幾人かの先人達。勝手にしろと諦めたり目撃者。そして今最も愛着と懐しさを感じてゐる幾人

かの後輩達。

いつかまたどこかの街角でヒョッコリ会うだらう。
ぼくは「部」が好きである。より以上に「部」の未
来が好きである。なぜならそれはぼくの青春から生ま

れて行つたものであるのだから。
青春よ、懐念よ、合縁よ、そして来しげの運の受取
達。今は、お別れだ。一際が「有歸」のサインをカ
がるのだ。

Kだおこがれを知る人ぞ、
わが羨みを知りこそすれ！

ひとり、なべての。

よろこびより廻てられ

なぐめこそすれ。

青春の双なK。

あわれ！この身を知り、いつくしみKもつ人。今は遠きかなをKいます。

環はくるめき。

はらわKは燃ゆる。

Kだおこがれを知る人ぞ、

わが羨みを知りこそすれ！

(ゲート)

北翔号奮闘す

萩原雅典

記録係りの吳君から昨年の学生白馬大会での北翔号について書いて下さいと依頼され、安請け合ひの私のこと、うっかり引き受けてしまい、さてさて何を書こうかと頭を悩める仕才です。北翔号は別に入賞したわけではなくあの大会では余力審査で失格してしまいました。活躍したとは言えませんが、奮闘したとはスえましよう。私は最初、初めの遠征でしたし、北翔号が肩を痛めたその代馬で附録的存在でしたので、雰囲気に乗っかうぐらいの気持ちで参加しました。北翔号をまだ初存知らない方々に一寸説明を加えさせていただきますが、彼女は純血のアラブで、そこらこちらの得体の知れぬ不肖の子ではございません。歩様もきれいだし、頭も利陸で、惜しむらくは、小柄であることがうらやまです。一がし彼女が伸び悩んでいる最大の原因は、調教者の技師の不熟なることでしょう。専任のコーテシなく馬に3、4年の私達としては、精一杯の努力はしているつもりです。ある程度止むを得ないかとも思いますが、さて舞台は遙か九町に移しまして、小倉兜馬場。

参加十三枚四十五頭の学生白馬大会も、さすが各校選りすぐった馬だけに、いい馬もいました。よく調教できていると感心させられた馬は、教頭だけでした。教頭という事は、あの馬は五十歩有歩ふたひした差がないという事です。岡山大学、学習院は確かに抽んでいたようです。恩田さんには失礼ですが、北翔号も、まんざら悪くもないし、トップクラスに属しているように思え満足を感じました。一日目は調教審査と持久力審査がありましたが、恩田さんと野田君は午前中でしたので、ゆつくり拝見させていただきました。野田君がトップでしたが、北翔号は団体以来調子が乱れていたので、予想はしていたが、その結果は気の毒でした。そうこうしている時、千葉裕記先輩が、わざわざ福岡から駆け付けて下さり、色々アシスタントして下さいました。恩田さんは調教審査で見事な手綱さばきで五位、その余力でもって持久力審査も完走し、一目目は五位と好調でした。北翔号は兎争馬だけに走踏を困っているうち、狂走でもしないかと、やさまきして見ていました。が、さすがに抑えていて、私達が応援している出口の前を通過した時、バテタと言う情けない顔で走っているのが印象に残りました。午後から北翔が出場しましたが、馬場では練習馬りの駆け足がうまくゆかず大

きな減衰で二十疋でした。が、もつこい臭が出て、もよ
さそうに思いました。それから三十分位してスタート
ルで、北翔を十分休養させていたので、手綱を引っぱ
り、スタート前から張り切つていました。前目下見を
しましたが、竟馬場にある肩足障害の生垣きは、かな
り大きくて、跳べるのがなほど思つたりしたが、野
外での障害は不意地悪く、川あり水壕ありで、北翔号
はどれを見ても嫌がりそうなた物ばかりであった。オ
ースタートを出走してからオースタートまでは走踏を定る
のだが、北翔号頭を下げて、喜んで走つてゆく、尻上
に何つたとたん尻を真正面に受け、息苦しかったが、
一頭でよいところを走つて、行く所ぐらゐ、好きな気が
する事はない。俗界を離れ、馬と天に登るような感じ
である。距離が長いので、かえつて冷静になれる。馬
は人向を人向は馬を互に信頼し、走つてゐるのは祭し
いもんである。オースタートの生垣の下はコンクリートで
固めに植え込みであるが、そう高くはないけれど、北
翔号障害を見た瞬間ギクツとした様子、今までスイス
ー走つていて、夢破れたという感じである。まあ諦め
てくれとばかり、拍車を入れると、はあ御主人、それ
じやとばかり跳んでくれた。オースタートは本当に慎重に
待つて行つたので、後は同じような障害だから祭であ
つた。皆んなの前を通つた時、滝沢君が「しつと飛ば

せ、いと呼んでゐる。五障害は餌さも巾も申し分な
くあり、何うが見えないくらいである。北翔これは嫌
がつたが、これが跳べなければ野外に出られなくなる
ので、一生懸命に推出するも、左へ左へと逃げるが、
思い切り障害にぶつつけるとよく跳んでくれた。い
よいよ野外である。オースタートを通らなければなら
ないが、旗振りか、どこかのスポンサーのマーク入り
の大きな旗をひらひらさせて待つてゐる。北翔はこの
ひらひら絶対嫌である。突然鼻をふくらませて、ス
タートを切ろうとはしない。旗振りに旗を見せないので
くれと瀧んでも、意地の悪い奴で、さらに高々と旗を
上げる。ここは歩足^{ウチク}区間で、とうてい歩足でスタート
を切れないので、さてどうしたものかと思案してゐる
内にも、膠着はひどくなる。まあよとばかり助走距離
をとりに、駆け足で、スタートを通りすぎたが、失格に
なるかなと気をもんだが、通過を認められた。川を走
り、砂利を走り、再び川の中へ、川の上がり口に凡太
の障害があつたが、川の中から跳び越さなければなら
ず、私は後半の出場なので、川床が深く掘れていて、
踏み切すらかつたが、一回目は迷走され二回目には、
塵壩にさわるごとく、跳び越した。後の障害は、もう
諦めたか自分から跳んでいく、水壕を一度拒否され、
最終障害に何つた。それは小高い丘の頂上にある。枯

木を積んだ障害だった。これも一寸嫌がつたくらいで跳んでくれた。その瞬間胸にジーンとするものが凍った。のとは速区で、北翔よくやつたと首をさすり、さつり一人でニヤニマしながら帰って行つた。この馬はごままで力を秘めているかよくわからないが、鎌田先輩は、飛越能力は一米五のは軽くあると言われ、又馬場をぶめば天下一品の運動をすると言われる人もいるし、未完の大厩も私が調教？している限り、戈壁もなかなか庄かさ、れそうもありませんが、とはいえ、いまさらそんな事を言つても始まらず、今年も、もつと技を磨きたいとは思つています。そういう意味で、学生有馬でのスチーブルを走破できた事は、大きな意味を持つてゐるわけです。スチーブルを完走出来た馬は十五頭もいますが、その馬からみれば二拒否した馬なんぞの奮闘記など、おかしくて聞いておられないかも知れませんが、北翔号にとつては完走した以上の意味を持つてゐると思ひます。この大会で南大畜産大が団体三位に入賞できた事は、遠征のつど、お世話になつてゐる私達としまして、心からお喜び申し上げます。又協力なされた部員の皆さん、Bの方々には、ここで深く感謝させていただき、奮闘記も統編が出るので今年もよろしく、一乃御鞭撞の程を。

会計奮闘す

片寄 録

「先生、渡辺から飼料代を払うように言われましたが」

「あつそうですか、農場の方から払うように言つてあるんだがまだ払つてない」

「はいまだです。学生課へも行きましたが農場から払つてもらうように」と

「学生課もねえ、一度電話してみました。学生課の電話番号は……」

半沢先生しばし電話と

「大平さんお留守ですか エエ、スエ また電話します」

「こまつたねエ、大平さんいはいつて」

「そうですが」それにてすね蹄鉄屋でも払つてくれと言つて来ました。

「鉄ねエ、まだ冬鉄でないでしよう」

「はい、まだです、しかし二、三週間のうちには冬鉄にうちかえませんか」とい

「そうですね。僕から一度農場の方へ連絡しましょう。」

「お願いしますし」

「もし、渡部さんですか、馬術部のものですが、」

「あ、馬術部さん」

「今の所、表は二週間位あるのですが、フスマの方が、
なくなりまして、出来れば十俵程お願いしたいんですが、」

「あつその事ねエ、お宅からの支払いが今のところ三十万程たまっているんですよ、四月からですよ、何んとかしてもらわなければ」

「農場から何か連絡ありましたか」

「全然ありません」

「出来ればフスマの方もつて来ていただきたいのです。誠にあつかましい話ですが」

「その事ねエ、私もほと、くいやになりましたよ。農場へ行けばこちらではないといわれるし、学生課へ行けばうちでは馬術部と一切関係がないといわれるし、それでねエ今度から注文する時は農場を通してにしてください。それではないと私の方も……」

「分かりました」

「もし、昨日一年目の部員から鉄を打たないという
ような事を聞きましたか」

「あつその事だつてあんた一月からの金がたまつてん

だよ、最初の約束とちがうでしょう」

「現在いくら位ですか」

「あつ、ちよつとまつて、エート、一月から三月まで二万程、それから七月までのが一万八千、それに今日までのが二万で合計六万程かな、農場へ請求書出してあるのに今まで払わないうて少しひどいよ、さう思わんか」

「はい、もつともです。すみません、かどうにかして打つてもらいたいのですが」

「うん、だからね、昨日もいったんだ。はつきりと払う日をおねエ、知らせてもらわなければなりやうたないね。それにうちはタイヤと両方やつてるんで、鉄の方をやめようかと思つてるんだ、何しろいそがしくてね」

「分かりました、一度農場と学生課の方へ行つてみます。」

以上三つの会話はすべてノンフィクションです。九月に新しく会計となつて以来以上のような会話が毎月明け暮れていきます。月日が立つにつれて泥の中へ一歩／＼入り込んでいくようです。火の車という事をよく耳にしますが、部の財政たるや火の車等という形骸がびつたりどこか火の車そのものといった状態です。マネーシヤと話す事は

新顔でよろしく

首藤 義明

「今部にどれくらいある」
「美はこれこれです。」

「そうか、蒂広との定期戦も少し苦しいなあ、何人負担を増すか」
「そうする以外ないでしょうね。」

その結果アルバイトに頼つたり、諸先輩の寄附をあおがざるを得なくなりまして、

アルバイトといえは今年はダンスパーティー、競馬場のバイト、農場の見張算をやりました、

みんな立派に社会人として世に出られる身であるのに、ある人は朝から晩まで競馬場の馬場に立つて中へ入ってくる犬を必死になつて追いかけたり、又ある人はたまに来る馬主の馬主章をみる為にはぼさつ、と一日中座つていたり、元気のありそうな人は交通整理で汗にまみれたり、そしてその結果持ち場をはなれたり間違つた事をする、

あんだ達大学生でしよ

以上、文章にもならない事を書きなぐりましたが先輩諸氏に現在の馬術部の一面を知つていただければ幸いです。

懺悔をこの辺で終わらせて頂きます。

南の九州から、わざわざあこがれて入つた北大に着いたのが四月六日、その夜、ちやうど一面の冬景色になつて寮の夜宿での友と水銀灯に照らし出された構内を歩いた。もう一年の大半は終つたが夢中で過した突つてきた。もう一年の大半は終つたが夢中で過した馬術部生活ともどうやら親しめるようになり各馬各様の個性をもちみないいやつばかりを楽しい。高技時代からスポーツは大好きで、特にマラソンとか水泳とかいつたどちらかという技より力感納なものが好きで必ず見たり聞いたものだった。しかし、いざ自分でもやってみると、いかにせんこの体ではとても人並みにすらなれない。それではと今思つてみると見当違いもはなはだしいが馬をやつてやろうと決心した。従つて入学前から馬術部に入ろうと思つていたのである。それまで家が田舎だから馬はいるにはいたが、一度小学校四年の時近所の友達に、こつそり連れてきたのに乗つかなかった、下り坂を下りるのがえらく恐ろしかったことだけ憶えている。故オニ勇のようはやせ

つぼちの馬だった。こちらについてすぐ見つけた馬差の勇士に頼み込んだら、まず講習会に出ろといわれるので暮雨けびる入學式を終えて一週回月上級生と一緒に初めて馬場に行つて見た。かなりの人敬でこれはなかなか大変だと直感した。二日肉耐きのいいソノソ歩く馬に乗せられた。それが朝清馬だった。あの時モやはり部班運動だったと思うが馬場の全部に散れとばかり、彼や彼女達の思い通りに歩かれていたような気がする。朝清ノコロコと小高い丘の上に登つていつて立止つた。下を見たら相当に高い所に居ることがわかつた。もう観念した。何が何でもからまりついていようと思つていたらヒヨイと飛びおりた。意外にいいバランスだった。かくて壁々とオ一障善バンケツトを通過したのであつた。その直後、ちよつとしたひよしに鞍がり落ちた。一年目最初の落馬だった。乗れ乗れと言われるのをそのまゝ、乗ろうとしたが乗る側が逆だという。あの時は思い出すとゾツトする。あわてふためいて乗つたのはいいが後股すれすれに通つたのによくケツトバサなかつたものだ。このひ弱は新入生をはやくも見抜いていたわつてやろうといふ馬心からか得意の逃げ足も使わなければ、電柱のような脚でケツトバンもしないでじつと乗るまで待つていくくれたのである。その後よく朝清に乗せられたがその度々に並

かされ通しだった。でも何とか動かせたと思えたらその日が無性に研がるく明日が待ち遠しいようになつた。最も張りのある寝休み前位だった。

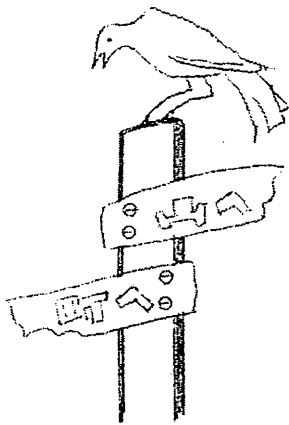
その頃からだんだん馬に乗るのが楽しくなつてきた。その意味で朝清馬にはいつとも感謝している。それからもう乗れる時はいつでも乗るといつた調子でがらまりにあつたわけもわからず通してきたが、はじめに合宿に参加してはじめて初めの予想とは全く違つていてビックリしてしまつた。一日の日課を見たら、なんと休業の合間に飯を食つて、その合間に馬に乗るといつたようなものがこれが合宿かとたゞたゞオタオタするばかりだった。かなり精神的なものも手伝わてか完金に体がまいつてしまつた。二次、三次と続く合宿にこれでやれるのかと心細くなつてくるような日が続いた。夏には帰郷することをやめてこちらで過したが、暑く湿度の多い九州に比していつになく快適だった。秋の道大会には四々しくも出ていつてみんなのもの突いの種になつたが、別に気にかけるような段階でもないと、できそうできないう自分を励ましなげら乗り競けている。入部して最初に見た大会は北大馬場での決手選だった。障善飛越の豪快さをまのあたりに見せつけられて馬術の魅力を一層高められた。一年目部員は稍稽をやられたが、この仕事はやつていて声援など

してはいけなことはわかり切っているがまつたくやりきれない。どうかすれば声が出そうになるのでも外に出で、ホラ行ケ。とか、ガンバレ。とかかけ声ばかりで満足していたらこれもあまりよろしくないとのこと。で連れ戻されて箱番。一日目蒂広に敗れたが二日目、之の蒂広も負けて優勝をこの一戦にかけた時には、まことにはずかしいことではあるが相手の失敗を心待ちするようになってしまった。でも初っ端の高木選手のサツソウとした満足騎乗は印象的だったこうしてついに我北大は王決へ進むことになったが、こうした試合の毎に馬術への脚志がわいてくるのはわれながらうれし。いよいよ冬將軍の到来を向えて王決選手の合指がはじまったがその頃内地では馬術競技たけなわの時期であることを知った。いよいよは行金の日札幌駅頭には応援団諸君の力添えもあつて盛大だったがあの時程選手の方々がたのもしく見えた時はなかつた。これも王者の貴録がどつしり落ち付いて、特意「お、そら号」の発車を待ったが教しい戦いに自ら挑む我戦士に何が何でも勝つてきてくれと一人一人手を握つて抱き附いて頼みたいような気持ちにかられた。送る者、送られる者、唯だ一つの目標のために心一つになれることは私の青春の貴重は一ページになつた。それからすぐ一年目部長の強化練習に入ったが、朝まだ暗く積雪を踏

んで歩くその音にも私は私なりに心の隅に大切にしまひ込んでおきたいものがある。十二月十五日は私がこちらにきてはじめて扛った吹雪の日、朝刊で鹿児島大に敗れる番狂わせとのつていた。ちようど障害に附けの伏衆だったがみんな鬃の毛を白く柔めてがんばつてゐる。私も馬車馬の初ツアンが雪ソリを引くなど北回ならではの尻脛に寒さを忘れた。午後はテレビ中継がある。大塚の配練工事のため停電になつたので六人で喫茶「ジロ」に行くことにした。ファイアースケディングの妙技が写つていたが、早く終らなにかなあと思つてゐると王決のタイトル入りの画面が静かに写し出されてきた。さあ始つたといふわけを突然おどつてきた生理現象も押えなければならなかつた。名大ー大阪府大の後、最終試合、これに勝てば再び優勝旗は津軽の海を越えることになる。集音マイクを通して飛ぶ声援が聞えてくる。あれは誰々さんの声だ。誰さんもお来ているという上級生、聞きなれた声も入ってくる。一番滝沢選手、ちよつとかなとを内にした独特のフォームで入場「サア行ケ」思わず六人の口から声が出た。「オー」と答える「ヨシ、大丈夫だ」テレビで写し出されると遠丘が押しちぢめられてよく表情も見える。じつと次の障害を見つめる目は日頃のちだやかさとは全く違つて慎重である。みんな息を殺して動かない。

店のステレオから出るジャズも全く耳に入らない。満
興でゴールする、ほつとする。息もつかせず、しかも
たんたんよ次の選手の入場である。小鳥選手のちよつ
と舌をかんだような表情、肩木選手の時打ち見せる白
い歯もこわばっている。三浦選手のあのよくすき盛つ
た声が画面を突破つて飛び出してくるようだ。入木選
手の落着いた引きしまった表情はいつの試合でも同
じだ、恩田選手はひきつったように心なしか悲愴感さ
えだ、よう。それそれ母校の栄誉のために死力を尽し
て戦つてくれている。こうした。名選手に励まされ、
はぐくまれて、我永繁な腕をきたえうることは何にも
まして辛わはだと感謝の気持です。

取のホームで見たことのある長鳴のプレーは一つの個
体の動きにしか見えなすが、こうしていつも寄りか、
り、わがま、むい、時には狭い部屋で一夜をともし
したこともある先輩の勇姿を見て感じることはこうし
た青春の一時を部生活に求めたもののみ味わえる何に
も増して大きい産物であると思う。春夏秋冬いつも悦
びを欠かさない大自然の中、愛馬と共に我つたな技
を磨き、諸先輩、上級生の御叱咤御指導をいたして
何とかこうした生活をまっとうできたら辛わはだと思
う。



永升一夫	才一代	北大名營教授	札幌市南二条西十二丁目(2)二四三五
高松正信	才二代	北大名營教授	東京都世田谷区松原町四ノ二九四
黒沢亮助	才三代	北大名營教授	札幌市北一条西二十二丁目(3)一〇五七
太秦康光	才四代	函館高等校長	函館市湯川町二ノ八
松本久喜	才五代	元農学部教授	鹿児島市鼓川町一一一
半沢道郎	現部長	農学部教授	札幌市北一条西十二丁目(七一)二二八六

昭和三十九年 月 日
 七 鹿兒島市

中野友二郎	昭和四年農學	長岡農業高校・新潟県高田市南城町一ノ三三	中野
平山常介	4	飯野建業KK舞鶴造船所・京都府舞鶴市北吸九六六	平山
中谷勝紀	5	飯野重工舞鶴工場長・東京都杉並区清水町二一六	中谷
岡克市	6	農林省十勝種畜牧場・十勝国河原郡官更町・同場内	岡
岩垣夫	6	福岡県國芸試験場長・福岡県信夫郡平野村	岩垣
河崎秋三	6	東京都荒馬組合八王子牧場・東京都八王子市高倉町一ノ五五三	河崎
永松四郎	7	新生興業KK・東京都大田区千束町七七一	永松
藤居金太郎	7	興業 プラザル サンプルウ口在任	藤居
武田朝男	8	千葉畜産工業KK専務・千葉市幕張町 同KK内	武田
原園基文(注)	9	区内庁特任取手専務・東京都渋谷区八幡通二ノ二三	原園
田畑武夫	10	田畑産婦人科病院・札幌市南五条西二丁目	田畑
植村勘一(注)	10	KK二光重産製仮所・東京都目黒区鷹番町四五	植村
久葉昇	10	兵庫農大助教・兵庫真多郡城瀬山町野添八七五ノ一	久葉
平田桓康	10	プレス工業KK技術部長・東京都千代田区紀尾井町四ノ一一	平田

氏名	卒業年度	学部学科	取 業 住 所
加藤 英夫	昭11年	医 産	朝日生命札幌支社 (4)九三三一 札幌市南大通り七丁目
大迫 明徳	11	理 化	ケミダイズ、謙沢工場長 東京都世田谷区世田谷三ノ二五六〇
吉見 一郎	11	農 産	雪印パーラー株式会社 東京都杉並区神戸町一一四
高杉 直幹 (7E)	11	理 化	札幌テレビ (四)一八一 札幌市北七条西十三丁目(四)三七二〇
脇田 代子 (10E)	11	農 化	モンサイト化成工業 KK 四日市工場加工部長 四日市大字赤城二ノ四
滋賀 透明 (11E)	12	医 産	大同製鋼診療所長 東京都港区芝白金三光町三六四
渋谷 周平	12	農 畜	三葉山興業 KK 東京都渋谷区代々木一ノ二二
前野 正久	12	農 畜	森永乳業中央研究所長 東京都目黒区中目黒一ノ八五二 昭三九一六 森永乳業
黒沢 良雄	12	農 産	日本長期信用銀行 神奈川県茅ヶ崎市小和田四三三三
森山 武雄	12	医 産	国立若木療養所長 青森県南津軽郡浪岡町
小笠原 義頼	13	工 産	日本電機 KK 王川製造所電收工兼部 川崎市稲河原二二三
小村 連天	13	農 産	岡山大学理学部教授 岡山市津島岡山大学理学部内
桶本 勝登	13	農 産	人事院東京地方事務所長 東京都杉並区上荻一ノ一九七
高井 久芳	13	農 畜	北海道仙美里農産講習所 北海道中川郡本別町仙美里
前川 幹弥	13	理 化	日本製鋼望満製作所 室蘭市茶津町同上社宅番外七九号
松下 亮 (12E)	13	農 畜	日本ビル目黒工場製炭課長 東京都渋谷区景近町五六一
山内 武天 (12E)	14	農 畜	玄島村農産共済組合畜産診療所主任
小田 晃也	14	農 畜	中央兜馬場長 東京都世田谷区 若林町二六六
中尾 敦司	15	工 産	美 業 静岡県熱海市伊豆山一八二番登夜館内
西村 雅吉 (14E)	15	理 化	住友ビル大日本鉱業 KK 東京都杉並区大宮前二ノ六〇五 北大理学部助教 札幌市南二十一条西十一丁目

水谷清登貞	15	農夫	瓦土建自営 金沢市古寺町十二
秋吉照志	16	農林	北海道合板協会東京事務所(中央区銀座一ノ三 荊銀座ビル内)
石井和彦(姓)	16	農畜	鳥取大学農学部助教 鳥取市湯所町心任宅二号
伊藤悦郎	16	工鉱	函館水産高校 函館市宮前町二一三
河原清作	16	工土	小樽市忍路取塩谷村
熊沢義光	16	農夫	北東農産化学工業KK 十勝国河東郡士幌市街同KK内
岡義人	16	医	岡内科小児科医院 秋田県湯沢市字西松沢二九二
高木史郎	16	工鉱	泉立水戸高校 茨城県東茨城郡茨城町駒渡一
十目根貞	16	農夫	直守農務部畜産課 札幌市南水上市町四六
半沢宏	16	工林	北大工学部助教 札幌市北六条西十二丁目
福光幸彦	17	医	福光小児科 札幌市南七条西四丁目
岡田光夫(姓)	17	工土	札幌市役所建設部長 札幌市南七条西二十二丁目
日取善之	17	農夫	大沢軽トラロツクKK取締役社長 弘前市大字薬師堂字熊本十九ノ二
山根乙彦	17	農畜	鳥取大学農学部助教 鳥取市立川町二丁目泉宮アパート一号
大戸進	18	農林	三井水伐工業KK名古屋支店 名古屋南区弥次工町一ノ十二 三井水伐共同住宅
平井友知	18	工産	日本通機放送器工業技術部 東京都町田市大谷字毛川学園 六四
小池栄一	18	工土	北海道電力土木部計画課 札幌市南十四条西九丁目
稻葉恵一	19	農化	日本油脂KK佃工場 八阪府高槻市南園町三三七
大手英夫	19	理化	日華油脂KK銀座営業所 東京都新宿区西大久保二ノ二一九
小林正英	20	農畜	東京都江東区農産改良普及所長 東京都杉並区阿佐谷三ノ二五九
羽島栄治	20	工工	国鉄大阪工事局停車場課長 兵庫県西宮市国鉄甲子園アパート
宇津見千之助	21	農畜	栃木県小山市横町二二〇六
宮崎利昭	22	工林	才一物産KK機械輸出部、在ペルーへ東京都北多摩郡柏江町和泉二六一八

氏名	卒業年度 学部学科	取 業 任 所
和田 晴	昭和22農畜	釧路家畜保健所長 釧路市浦見町同所内
武田 碩	25理地	国除航業KK研究室 東京都北多摩郡国立町西区二五一同社宅
後藤 義英	28農畜	札幌市西保健所 札幌市円山西町二ノ九七
育藤 善一	28農畜	北大農学部教授 札幌市南五条西十五丁目
佐藤 敏	28農畜	自営 札幌市南十六条西八ノ五八〇
下坂 敏夫	28農畜	北大日高実験牧場 北海道静内郡静内町御園
鈴木 敏夫	28農畜	美幌高校 網走郡美幌町東二条北一丁目 森万
渡植 貞一郎	28農畜	北大農学部 札幌市北二十六条東二丁目
鷹野 保	28農畜	北海道農業試験場根室支場 北海道磯谷郡中標津町同場内
永井 重翁	28農畜	雪印乳業KK伊保内工場 若手果九戸郡九戸村長共軒才二ノ七〇同場内
梶谷 晴男	28農畜	大阪奥市場KK 福岡市四糸町四糸
古谷昌司 (26主) 27	28農水	古谷製菓東京工場 埼玉県浦和市別所西野台一三一〇
吉本 正	28農畜	宮城農業試験場 仙台市原町小田原栢江三九 同場内
福島 務	27医	北大産婦人科教室 札幌市琴似町二二五
阿部 晃一郎	30工紙	任友企画山崎之舞盆業所 札幌市鴻之舞 青羽寮
鎌田 正人 (28主) 29	30農畜	鎌田牧場 北海道浦河郡浦河町西幌別
田中 浩	30工治	神戸市葺合区神戸製鋼所熔接棒事業部内
正 福 之	30運動	北大理学部動物学教室 札幌市北八条西十八丁目
岡本 光	31農生	十条製紙KK研究所 東京都文京区雑司ヶ谷六一 十条製紙推司ヶ谷寮
加藤 育	31獣	神戸市王子動物園 神戸市兵庫区熊野五ノ十九ノ五
有藤 武俊	31農至	北海道信用農協連岩見沢支所 岩見沢市四糸西五丁目 及川万

佐伯雄二	栗津輝太郎	村山哲	中村美幸	山本智	上井敦	下乘幹夫	樋口正明 <small>(22注)</small>	菅原照雄 <small>(22注)</small>	生田勝一 <small>(22注)</small>	柴田久男	渡辺俊弘	松田環	栗原康	乾直進	伊藤亮 <small>(22注)</small>	言沢寛	有藤実	岡部滿雄	榎本幸人	荒川清	千田哲生	加藤昌大郎
------	-------	-----	------	-----	-----	------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	------	------	-----	-----	-----	--------------------------	-----	-----	------	------	-----	------	-------

35 履畜	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場	34 水場
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

防大応用物理学教室 横須賀防狂大学内	日本中央竞馬会保健研究所 東京都世田谷区菟卷町三ノ六二一	札幌卜ヨ夕自動車KK(2)八一九一 札幌市南八条西二十四丁目	和歌山県立医大細菌学教室 和歌山市宇須三八九 松尾方	道庁宗谷支庁	不二越鋼材工業KK 福井市下北野町	日本揮奕油(四日市市) 三重県四日市市 同上内	農林省中国種畜牧場 茨城県加茂郡河内町入野 同場内	疫研究所病理部 神奈川県藤沢市辻堂北町二五五七	茨城県磁山安全監督部支所 山口県宇部市上宇部郡猿田公務員住宅一号	札幌医大法医学教室 札幌市北十四条西十四丁目	北海道炭鉱汽船KK石炭化学研究所 東京都杉並区天沼一ノ二六二 荻窪北交差点	北海道電力 北海道江別市対雁一番地 北道アポルト	流産新報直道部 札幌市南三条西一丁目 同上内	北大工学部研究室 札幌市北十八条西四丁目	札幌市北十八条西四丁目 東京都世田谷区上馬町二ノ十三	中央竞馬会中山元馬診療所 千葉県船橋市古俣町二一七 中山寮	ハクレン農業協同組合連合会酪農部 札幌市北四条西一丁目 同上内	省形中学校(札幌市利尻町省形字日ノ本町)	東京都中野区鷺ノ宮一ノ七八二	北見市美芽町 北見市南一条西十七丁目(六三)〇七〇一	札幌市南一条西十七丁目(六三)〇七〇一	札幌市南一条西十七丁目(六三)〇七〇一	札幌市南一条西十七丁目(六三)〇七〇一
-----------------------	---------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	--------	----------------------	----------------------------	------------------------------	----------------------------	-------------------------------------	---------------------------	--	-----------------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	----------------------	----------------	-------------------------------	---------------------	---------------------	---------------------

氏名	牛業年度	学部学科	取	所
田中紀少	昭和35年度	産科	本校会社	静岡県清水市宮代町六
長谷川邦夫	35年度		岩崎通信科修務課	東京都杉並区久我山二ノ七-10
本橋幹久	35年度		Sego do Triunfo Aoioba Cooperativa Central Japonesa	Sego do Triunfo, Ribeirão Preto, São Paulo, Brasil
森本博久	35年度		松下木技科開発部	東京都葛飾区新宿三ノ五九三
大場善明	36年度		読売新聞社	東京都江東区深川三好町二ノ一六 志水方
吉田享	36年度		高砂熱学工業科技術部	東京都中野区鷺ノ宮一ノ二〇一
湯浅正之	36年度		伊藤忠商事科	東京都武蔵野市西瀬字耕地伊藤忠商事 杖身蔵
河原紀夫	36年度		アジヤ航互刺重	東京都芝田村町五ノ七同上内
稲垣修一	36年度		大同炭礦科	愛知県刈谷市多摩須賀町大同製鋼知多寮
佐藤典子	36年度		北大医学部	札幌市北二条西十三丁目
高林嬉子	36年度		北大医学部	札幌市北二条西十三丁目 長岡方
小山毅	37年度		北大医学部	札幌市北二条西十三丁目 林崎子方
壬辰一晴	37年度		37茶	札幌市南八条西八丁目
千葉祐記	37年度		雪印乳業科	福岡市三呉服町二十一生命ビル内 雪印乳業販売課
鶴岡好博	37年度		江戶川化学科	東京都台東区上野桜木町二三 三菱江戸川化学寮
瓜岡暢夫	37年度		全販運	茨城県西茨城郡岩間町押近全販運甲天種豚場内
森弘草	37年度		大隈鉄工所	名古屋市中区正町一丁目 大隈鉄工所才一寮
四探智久	37年度		北大医学部	札幌市南二十条西七丁目 上原方
伊藤公一	37年度		北大医学部	札幌市南二十五条西十二丁目
下塚信次	37年度		北大医学部	神奈川県藤沢市鶴沼二八〇二五
小島香少	37年度		北大医学部	神奈川県藤沢市鶴沼二八〇二五

市川瑞彦(力主)
 河田征至
 思田正臣
 小出芳堂
 清水羊
 田中乙子
 志水一丸
 辰重一
 堀川芳男
 密崎健

坊通物
 坊法志
 坊農商
 坊医医
 坊農商
 坊農工
 坊林産
 坊農農
 坊農商
 坊文露

北海道拓殖銀行
 農林省
 農林省

上川郡美英町西町四丁目一番地
 神奈川県川崎市木具町九八 拓銀 水月蔵
 群馬県山田郡毛里田村天田屋
 大阪府阿部野区美幸町一ノ三八
 茨城県真壁郡同成町 農林省種畜場
 東京都目黒区南之木坂八二四
 東京都工東区深川三好町二ノ十六
 東京都大塚区大塚坂下町九九
 東京都中野区上高田ノ九六
 大阪府南河内郡板山町西迎尾四三二

石井昌長
 福面邦聚
 田之上 亥人
 石塚和夫
 八久保利彦(力主)
 小長谷 吾高
 菅原照雄
 比山 静子
 比山 静子

坊農化
 坊農農
 坊農水
 坊農
 坊水産
 坊文哲
 坊文英

○ 任所をお知らせ下さい
 東京通商産業
 曹印乳業社
 静修書校

千葉県稲毛町四ノ二二四九
 天沼郡中野町 今上比呂
 此三条路二十三

氏名	享年	学部	現任	所	生
八木 正三	42	理生	札幌市北大通面二五三	八重口方	夕張郡長沼町二四区
荒木 伸也	44	水産	札幌市北七西八	北大北農寮	熊本県下益郡城南町限在五三三
小島 武	44	医疾	札幌市北七西八	工山方	茨城県上浦市東崎町二五四
高木 裕太	44	農畜	札幌市北七西七	有限方	茨城県戸田町西蔵所町三
田村 雅英	44	農畜	南大通面十七	山崎方	山崎市杉並町四六
寺江 則子	44	農畜	北大通面二十三	山崎方	北海道浦河郡浦河市大通五
三浦 青一郎	44	教育	札幌市北七西七	北大北農寮	茨城県土浦市荒川沖五九一
入沢 雅代	44	水産	函館市港町二五三	山崎方	埼玉県大宮市古敷町二〇六〇
大下 誠示	44	理数	札幌市北七西七	山崎方	室蘭市常盤町六一
菅野 弘	44	農畜	札幌市北七西八	関アールト	東京都世田谷区三川奥天町三〇六一
萩原 雅典	44	理数	札幌市北七西八	工ルム庄	四国高松市兵庫町
御坊日 貞一	44	工治金	札幌市北七西八	月廣寮	埼玉県浦和市常盤町一〇一二〇
滝沢 通子	44	文芸	札幌市北七西八	工ルム庄	同上
滝沢 角海男	44	理生	札幌市北七西八	工ルム庄	前橋市吉俣町萩北二四〇ノ二(2)四二二三
野田 行文	44	獣	札幌市北七西八	小倉方	大阪府東区大手前町
牧 竜子	44	医疾	札幌市北七西八	小倉方	同上
小野 佑亮	44	理数	札幌市北七西八	小倉方	同上
松永 武彦	44	理数	札幌市北七西八	小倉方	同上
守屋 正	44	工橋	札幌市旭町一ノ六三	守村方	当古屋市東区東外堀町二ノ三
預田 肇	44	農化	宮ノ森四三九	源沼方	静岡県焼津市坂町二二五
菅旧 孝男	44	農化	南十五西九	又久保方	横浜市神奈川区上友町二ノ二二一
小原 紀彦	44	教理	北七 西十二	秋田寮	名古屋伊丹市平町五丁目五ノ六
					東京都目黒区月尾町一六三

加藤正昭	大谷洋一	魚住侑司	井上克彦	伊藤富子	大塚憲子	栗沢敏	山村勝	標谷洋生	八木洋正	八木多實子	松尾克彦	藤井敏彦	高橋昭夫	高野文彰	高野文彰	近藤喜十郎	河合晴夫	河合晴夫	石原存志	尾崎謙	尾崎謙	尾崎謙	
				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
				法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	法	
北五西又	北二丁三東四	北十七西五	南大雁以西丁五	北六西十三	北十東八	北觀市北丁八西六	北觀市北七西十二	北入惠通寮	北二十西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二	北觀市北十一西二
青坪寄筒寄	石垣方	新井方	山口方	北六女子寮	北六女子寮	米沢寮	米沢寮	北六北鷹寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮	北六女子寮
帯谷市六通リ八丁目	茨城辰水戸市行町五一	砂川市西二条北五丁目	埼玉県新鵜野町出鴛五五一	岩見沢市緑町丁九	同 上	名寄市西三南五	山形県赤松市天神前一五八	香川縣高松市天神前一五八	東京都台東区浅野町七	山形縣八雲町長公町二一三	大阪府枚方市中振二四〇〇	札幌市北二十二東九	青森縣八戸市山伏小路六	名古屋市中千種区白陽町三一〇	山形縣赤松市小国町二一六五	兵衛屋市甲区古渡町五一六一	信太官舎	市河寮町	静岡縣磐田郡蓋田村一言	秋田縣南秋田郡五城目町蓋田	大阪府門真市門真南一ノ五四	大阪府門真市代田一ノ三六七	東京都世田谷区代田一ノ三六七

人物故音

又 名

橋

辻 行 遷 吉 元配蛋将校
 沢 田 鶴 松 昭 必 工 茲
 其 綱 雅 彦 " 5 葵 齋
 坂 甲 慶 拜 家 " 6 慶 実
 几 鬼 誠 之 助 " 8 濃 化 昭 6 主任
 岩 崎 帰 一 " 10 工 齋
 雷 望 穂 稔 " 12 慶 実
 永 田 敏 雄 在 学 中 死 去
 下 糸 親 昭 必 慶 齋
 石 川 正 吉 在 学 中 死 去

嵯峨良一	号平与部	現任所	TEL	帰省先	TEL
清木保貞	/	北大恵通寮		東京都練馬区谷原町一ノ五八	
百藤義明	/	北大恵通寮		東京八王子市甲野町五〇八	
田中道倬	/	北大恵通寮		大阪府八王子市内町大字南六丁目三五六	
增田道天	/	北大恵通寮		岐阜県郡上市八幡町尾崎	
渡山	教水	儿隈市北下九原七	水田方	静岡県伊達町梅本町	

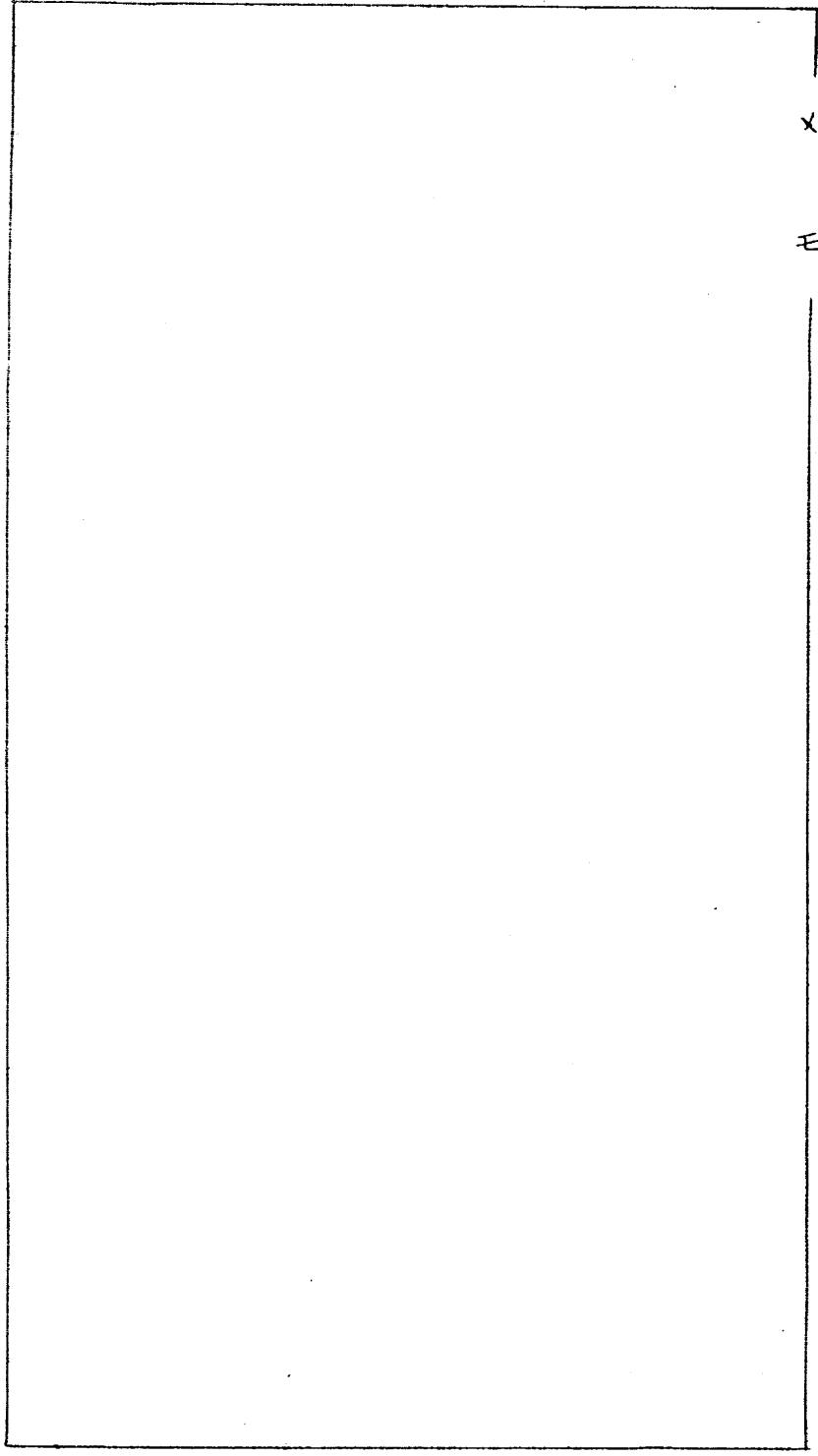
菅 岡 威 昭 昭 13 葵 齋 於 ス イ ス 稼 作 中
 佐 藤 義 則 昭 15 慶 実 於 エ ー ス 洋 油
 山 本 誠 15 濃 化 我 死 於 千 島
 水 崎 寛 昭 16 工 上
 小 林 誠 平 昭 17 慶 実 昭 17 主 将
 福 本 途 天 昭 17 濃 化 於 エ ー ス 洋 油
 山 本 信 一 昭 19 慶 実
 文 彦 昭 23 隆 医

中 小

以上 印の記録 台字印の名義等により翻べ修正 しましたが、何か不備な点が御座りましたら、或いは変更された際には どの御一報下さるようお願いします。

一貴 一 呉 一

×
モ



後記

いよいよお終りの時が来た

礼大 連覇ならず

壬座 礼大を去る

壬座 渾身の力をこめて

壬座に笑い 壬座に泣いた

一年であつた。

身報を新年までまごころにこいわれ、こりかかった力りす
月、年があつたまりようやく平劇にまわせる役階とな
りました。

一応期日までに出した原稿は全てのせる方針であつた
のに下級生からの奇稿が少なく、残念 疑問なり 不
満なり 更なる気持で書いてほしかつた。

先輩諸氏の原稿もなく少々寂しい身報です、暇な折
で結構です。新年のファイトで一筆お待ちしております

最後は奇蹟して下さつた方、手はつて下さつた方、有
難う御座りました。

後記